

機関誌ベトナム2024-2025 目次

1. 目次	
2. 挨拶	
ベトナム協会設立60周年を迎えて……………	公益社団法人ベトナム協会 会長 檜田松登… 1
ベトナム協会設立60周年を迎えて……………	公益社団法人ベトナム協会 代表理事 山中祥弘… 2
3. 事業報告 講演会	
指導者交替の続くベトナム政局 トー・ラム新書記長の下で安定回復に向かうか？ - ……	前駐ベトナム日本国大使 山田滝雄氏… 3
4. 事業報告 ベトナム人作文コンテスト	
最優秀賞 日本に来る前と来た後 ……	帝京大学 経済学部 チャン ティ リン… 10
優秀賞 日本を訪れる価値のある場所です ……	国際情報経済専門学校 ヴォ ティ キエウ ホア… 12
優秀賞 日本へ来る前と来日してからの印象 ……	与野学院日本語学校 プイ ゴク イェン… 14
あかり会賞 日本へ来る前と来た後の感想 ……	富士桜事業協同組合 グエン・ティ・トゥ・ホアイ… 15
VYSA賞 来日前の日本と来日後の日本 ……	東京外国語大学 グエン レ タム ドアン… 16
寄稿 私は城崎温泉で1年間インターンシップをしました。 ……	ハノイ大学 ズオン タオ ヴァン… 17
寄稿 私はインターンシップで来日し、帰国しました。 ……	ハノイ大学 ファム ティ ガン… 19
5. 事業報告 調査レポート	
在留ベトナム人<2019/6 -2024/6>比較 特定技能：ベトナムで技能技術試験がスタート ……	早稲田大学大学院 野村侑平氏… 20
6. 各地のベトナムフェスティバル	
ベトナムフェスティバル2024 池袋 ……	21
ベトナムフェスティバル2024 代々木公園 ……	22
ベトナムフェスタ in 神奈川 ……	23
Kanagawa festival in Danang ……	24
Kanagawa festival in Hanoi ……	25
7. 情報公開	
グエン フー チョン書記長の死を悼む弔問 ……	26
在ベトナム日本大使館 広報文化センター 公開 ……	27
ベトナム政府 大規模な国家構造改革方針、省庁の統合・解体、5省を削減へ VIETJO ……	28
8. 活動報告	
日本におけるベトナム労働者の日 ……	29
在日ベトナム伝統文化芸術協会設立 ……	TTXVNのネットニュース… 31
ベトナム語スピーチコンテスト ……	神田外語大学… 32
NASIC日本語スピーチコンテスト ……	一般財団法人学生サポートセンター… 34
在日ベトナム人留学生山梨県小菅村を訪問 ……	在日ベトナム学生青年協会… 35
都立園芸高校 学生16名 ダントップ省訪問レクチャー参加 ……	36
VJTCボランティア日本語会話トレーニング指導員報告 ……	37
9. 団体報告	
フエ外国語大学 第2回日本語スピーチコンテスト報告 ……	袋井ベトナム友好協会… 38
国際芸術シンポジウム ……	国際総合芸術文化協会… 40
大阪ベトナム友好協会の活動 ……	一般社団法人大阪ベトナム友好協会… 42
在日ベトナム学生青年協会 2025年度体制 ……	在日ベトナム学生青年協会… 44
10. ベトナム訪問記	
史上初ベトナムハノイ近郊にて採燈護摩供・火渡り出仕記 ……	天台宗普賢寺 住職 小野常寛氏… 45
ベトナム軍事歴史博物館 移転先訪問 ……	48
11. 掲示板	
新入会員・会員名簿 ……	49
役員一覧表 ……	50
あとがき ……	51

表紙 修復を終えた日本橋（ホイアン）

南中部沿岸地方クアンナム省ホイアン市の旧市街に架かる来遠橋（Cau Lai Vien、別称：日本橋、橋寺）の修復工事が完了した。橋の基礎や橋脚、床、屋根、電気システムなどの修復や改修が約1年半をかけて行われた。

ベトナム協会設立60周年を迎えて

公益社団法人ベトナム協会
会長 槍田松瑩



公益社団法人ベトナム協会が設立60周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

この節目を迎えることができましたのも、ひとえに会員の皆様、弊協会役員、関係各位のご支援とご協力のおかげであります、心から感謝を申し上げます。

当協会は、数多ある日本・ベトナム両国の友好機関の中で唯一の公益社団法人として、両国の友好と相互理解を深めるための活動に取り組んでおります。

外務省許可の下、1965年11月26日に社団法人ベトナム協会が設立されました。往事我が国は、まだベトナム社会主義共和国との外交関係がなかった時代であり（1973年国交樹立）、先人達の設立にかける気宇、気概とそこのご苦勞に頭が下がる思いであります。

時代の変遷と共に、両国の関係も深まり、特に近年は同国の目覚ましい経済発展と、アジアを取り巻く環境の変化により、両国間の紐帯関係の重要性は益々強くなっています。

本協会のこれまでの成果は、皆様のご協力と熱意があってこそのものであります。重ねて御礼を申し上げます。また設立以来、代表理事には物心両面でのサポートを続けておられますことも、改めて申し添えます。

今後も、さらなる発展を目指し、文化交流や経済協力、教育支援など、幅広い分野で活動を推進してまいります。

未来に向けて、両国の絆を一層強固にし、新たな可能性を拓くために尽力してまいります。皆様の引き続きのご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

ベトナム協会設立60周年を迎えて



公益社団法人ベトナム協会
代表理事 山中 祥弘

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素より、公益社団法人ベトナム協会の活動にご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年11月、当協会は設立60周年という大きな節目を迎えます。

設立以来、日越両国の架け橋として文化・経済・人的交流をはじめ、さまざまな活動を展開してまいりました。これもひとえに、会員の皆様をはじめ、多くの方々のご尽力とご支援の賜物であり、深く感謝を申し上げます。

この60年の間に、日越関係は大きく発展し、経済的な結びつきの強化はもとより、人的交流もかつてないほどに活発化しています。特に近年では、日本で学ぶベトナム人留学生や働くベトナム人の増加が、両国の相互理解をより一層深める原動力となっております。

当協会としても、この歴史的な流れを受け止め、引き続き友好関係のさらなる発展に貢献していく所存です。

本協会の設立者である、同郷の土堀添勝身氏の熱い思いを受け継いで、微力乍らの本協会とのご縁を続けて来ましたが、60周年という節目を迎え、新たな時代に向けての歩みを進めるにあたり、これまで培ってきた皆さまからの信頼と絆を大切にしながら、新たな課題に取り組んでまいります。

本年も昨年につき、特別講演会や文化交流イベントなどを予定しており、これからも会員の皆様と共に、同国とのより深い友好関係に寄与できるよう本協会は努めてまいりますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

指導者交替の続くベトナム政局 — トー・ラム新書記長の下で安定回復に向かうか？ —



前駐ベトナム大使 山田滝雄

ベトナムにおける頻繁な指導者交替が関心を呼んでいる。

ベトナムの政治指導部の頂点にあるTOP 4（書記長、国家主席、首相、国会議長）だけでも、2023年1月のグエン・スアン・フック国家主席の退任に続き、2024年に入ってヴォー・ヴァン・トゥオン国家主席、ヴォン・ディン・フエ国会議長が相次いで退任した。代わって5月にはトー・ラム国家主席、チャン・タイン・マン国会議長が新たに就任し、更に7月のグエン・フー・チョン書記長の逝去を受けて、8月にはトー・ラム国家主席が新書記長に選出された。そして10月には、ルオン・クオン氏が新国家主席に就任した。

TOP 4 以外の政治局員まで含めると、2022年末以降の2年足らずの間にベトナムの政治局員18名のうち半数に近い8名が交替したこととなる。



2024年5月に開幕した国会第7会期においては、トー・ラム氏が新国家主席及に、チャン・タイン・マン氏が新国会議長が選出された。(写真・TTXVN)

反腐敗キャンペーン

このように頻繁な指導者交替が起こる原因となっているのが、「反腐敗キャンペーン」である。これは、故グエン・フー・チョン書記長が自らの政治生命を賭けて取り組んできた大事業であり、ベトナムが独立100周年となる2045年までに高所得国入りするという大目標を達成するために避けては通れない重要なテーマである。

実際、腐敗は、ベトナムの社会制度に巣くう深刻な構造問題である。ベトナム人自身がその最大の被



ベトナム共産党中央執行委員会の総会においてスピーチを行う故グエン・フー・チョン書記長。
(写真・TTXVN)



害者であることは言うまでもないが、我が国を含む多くの海外投資家も腐敗に悩まされてきており、ベトナムが海外から質の高い投資を呼び込み、更に高度な経済成長を遂げるためには、腐敗克服は不可欠である。

生前、チョン書記長は高齢かつ病身でありながら、この困難な課題に文字通り命を賭して取り組んできた。その姿は多くのベトナム国民から熱い支持を集め、同書記長の国葬には多くの人々が参拝し、葬儀終了の時間を超えてもその行列は途絶えることがなかった。

筆者も駐ベトナム大使としての在勤中、様々な機会に、ベトナムが腐敗を克服し、ルールに基づきコンプライアンスを重視する社会へと生まれ変わろうとする努力を評価する旨繰り返し述べてきた。

社会的、政治的コスト

他方で、腐敗克服には相当な荒療治が必要であり、その社会的・政治的コストが高いことも事実である。冒頭で、過去一年半程度の間政治局員の半数近くが辞任したと書いたが、その殆どが腐敗絡みの辞任である。更に、政治局員よりもう少し対象を広げると、筆者がベトナムに在勤した4年間に腐敗絡みで辞任ないし処分された党や政府の幹部は数えきれず、その中には筆者と面識のあった幹部も数多く含まれていた。

腐敗克服のためには党や政府の幹部であろうと容赦しないという厳格な姿勢は、「反腐敗キャンペーン」に国民的支持を集める上で大きな役割を果たしている。しかし、高位の幹部の辞任や処分は、ベトナム政治に混乱をもたらし、公務員を萎縮させている面も否定はできない。

腐敗克服を重視するのか、それとも行政の効率性を重視するのか、ベトナム指導部は、この大きな矛盾に直面しながら微妙な舵取りを続けてきている。

しかし、そのような中にあっても、ベトナムの政治は結束を維持し、経済は一昨年に8%、昨年は5%以上という東南アジアでも有数の成長率を誇ってきた。これは、ベトナム社会が大きな潜在力とダイナミズムを胚胎し、腐敗克服のために様々なコストを払いつつも、経済成長を継続できる可能性を示しているとも言えるだろう。

最高指導部人事への影響

党や政府の幹部を巻き込んだ「反腐敗キャンペーン」は、意図するかしないかに関わらず、ベトナム指導部人事に大きな波及をもたらしている。特に今年に入ってからのTOP4を巻き込んだ政変劇は、結果として、2026年1月に予定される第十四期党大会で決まると見られていた最高指導部人事を前倒して実施することになった。

このような流れが顕在化し始めたのは、2024年1月、チョン書記長の容態悪化が報じられ、早期退任の噂が流れ始めた頃である。その時点において、チョン書記長の後継候補として有力視されていたのは、フエ国会議長（当時）とトー・ラム公安大臣（当時）の二人であった。

フエ国会議長は、国立財政学院の教授・副学長、会計検査院副院長、財政大臣やハノイ市党委員会書記などの要職を歴任した経済に明るいテクノクラートで、自らの出身地であるゲアン省および隣接するハティン省の出身者で形成される所謂「ゲティン閥」の支持を背景に、近年大きく存在感を伸ばしていた。

一方、トー・ラム公安大臣は、ベトナムにおいて国防省と並ぶ最有力省庁である公安省のキャリアを上り詰めてきた超エリートであり、しかも公安一筋の堅物ではなく、音楽をこよなく愛し、経済にも通ずる教養人である。日本との関係も長く、日本に知人も多い。



国会第7会期におけるトー・ラム氏の国家主席就任宣誓。
(写真・TTXVN)

この二人の後継候補者の明暗は、2024年に入ってからの腐敗絡みの指導者交代劇の中で、大きく別れることとなった。即ち、4月26日にフエ国会議長が腐敗事案に関する道義的責任を取る形で辞任する一方で、5月22日にはトー・ラム公安大臣が新たに国家主席に昇進した。そして、7月19日にチョン書記長が逝去したことを受け、8月3日、党中央執行委員会はトー・ラム国家主席を新書記長に選出することを全会一致で決定したのである。

ベトナムの投資環境への影響

ベトナム政局が複雑に揺れ動く中で、我が国を含む世界の投資家間に、ベトナムの投資環境は大丈夫かとの心配の声が上がるのは当然のことであろう。特にベトナムの場合、政治的安定性が投資家にとっての大きな魅力とされてきただけに、政局の先行きへの不安は投資意欲に大きな影響を与える。

ただ筆者自身は、現状では、一連の指導者交替劇がこれからのベトナムの投資環境に及ぼす影響は、世上懸念されているほど大きくはないように観ている。

その理由は、第一に、今回の指導者交代劇の結果、トー・ラム新書記長の下に新たな最高指導体制が発足し、今のところ順調に滑り出しており、当面は大きな政変が起こる可能性はむしろ減じているよう

に思われるからである。

勿論、一連の政変劇の傷跡は未だ完全には癒えておらず、トー・ラム新体制が本当に安定するかはもう少し様子を見た上で評価を固める必要はあろう。しかし、以下のような状況を見る限り、トー・ラム新体制の基盤固めは順調に進んでいるように見受けられる。

(1) 公安大臣の後任人事

トー・ラム氏が国家主席に昇進した際に先ず話題となったのは公安大臣の後任人事であった。結局後任には、トー・ラム氏が最も信頼を寄せる同郷（フンイエン省出身）のルオン・タム・クアン公安副大臣が就任し、更にその後、クアン新公安大臣は順当に政治局員に昇進している。これらの動きは、トー・ラム新書記長が公安省への強い影響力を維持している証左と見られている。

(2) 軍との関係

また、トー・ラム新指導部と軍との関係に懸念を寄せる向きも一部にはあったが、軍からはルオン・クオン人民軍総政治局長が党内序列第5位の「書記局常務」に抜擢され、さらに2024年10月にはTOP4の一角である国家主席に昇進した。現状では新指導部と軍との間に大きな軋轢は見当たらない。

(3) 「ゲティン閥」との関係

今回の政変劇で退任したフエ前国会議長の支持母体である「ゲティン閥」とトー・ラム新指導部との関係を懸念する声も一部に聞かれたが、2024年8月3日にトー・ラム新書記長が選出された際のお披露目では、トー・ラム新書記長を囲んだ6名の幹部のうち3名がゲアン省ないしハティン省出身者であった。また、党人事を総括する組織部長や財政担当副首相といった要職にゲアン省出身者が登用されるなど、「ゲティン閥」に手厚い配慮が払われていることが窺われる。



トー・ラム新書記長就任時のお披露目写真。中央に立つトー・ラム新書記長の両脇をチン首相とマン国会議長が固め、向かって右側にはクオン書記局常務（軍出身）、チャック党中央内政委員長（ゲアン省出身）が、左側にはトゥ党中央監察委員長（ハティン省出身）、フン組織委員長（ハティン省出身）が並んでいる。軍と所謂「ゲティン」閥への手厚い配慮が窺われる。（写真・*Nhân Dân*（ニャンザン））

第二の理由は、ベトナムの経済政策をリードするチン首相が留任したことである。ベトナムでは、軍と公安という「力の官庁」は書記長の下に置かれ、「経済官庁」は首相の統括下に置かれている。従って、投資環境に直接の影響をもつ「経済官庁」を統括するチン首相が留任したことは、海外の投資家にとって安心材料であろう。チン首相サイドからは、今回の政変がベトナムの投資環境に与える影響はあ

まりないので安心して欲しいと言うメッセージが筆者のもとにも送られてきている。

因みに、一部報道では、トー・ラム元公安大臣が新書記長に就任したことをもってベトナムの「公安国家化」が進み、外国企業の投資環境に消極的な影響が及ぶのではないかという懸念の声が聞かれる。このような懸念が持たれる理由はよく理解できるが、筆者は、海外からの質の高い投資受入れが自国の経済成長には不可欠という認識が、他の共産主義国以上に浸透しているベトナムでは、これまでも公安当局による外国投資家への干渉は比較的少なかったし、今後もそのような事は起こりにくいものと考えている。

トー・ラム新書記長自身、海外からの投資の重要性をよく理解している。大使在任中、筆者はトー・ラム公安大臣（当時）と何度も懇談する機会があったが、そのような場では、公安関係だけではなく、日本企業の投資環境など経済関係にも話題が及ぶことが常であった。また、邦人を巻き込んだ深刻な事案の解決のために、トー・ラム公安大臣自らがベトナム上層部の調整に動いていただいたこともあった。



2024年4月に行われた筆者によるトー・ラム公安大臣（当時）への離任表敬（写真・人民公安新聞）

「和解と団結」を重んじる政治文化

更に、ここで指摘させて頂きたいのは、ベトナムには「和解と団結」を重んじる独特の政治文化があることである。

これはホーチミン主席以来の伝統である。若き日のホーチミン主席は、儒教の礼記の中の『大同説』、即ち、「天下を公となし、賢をえらび能とくみし、信をはかり睦をおさめ」れば、人々がみな助けあう社会ができるという理想郷論を信奉していたと言われる。そして、国家指導者となった後も、集団主義を重んじ、「団結、団結、大団結」と常々唱えていた。ホーチミン主席の考えを筆者なりに噛み砕くと「政治には、対立はつきものであるが、大事なことは、対立を如何に克服し、和解し、団結を維持するかである。」という事ではないだろうか。

実際、ベトナムの政治家は、対立を克服し、和解を醸成する「切り替え」が頗る上手い。筆者在任中のエピソードをご紹介しますと、フック元国家主席は2023年1月に腐敗事案の道義的責任を取る形で退任したが、国家主席退任の直後から、公的な場所で日本の要人を接遇していた。また、同年5月と10月のベトナム国会開会式では、フック元国家主席は最前列に座り、他の指導者と談笑していた。更に、2024年4月に退任したフエ前国会議長も、翌5月の国会開会に先立って指導部幹部が行ったホーチミン廟参拝にフック元国家主席他とともに最前列で参加していた。



2024年5月18日、国会第7会期開幕に先立って党と国家の指導者によるホーチミン廟への参拝が行われた。参拝には退任した指導者も含まれ、フック元国家主席やフエ前国会議長は最前列に位置している。(写真・TTXVN)

筆者は大使として、フック元国家主席やフエ前国会議長の退任劇をかなり深く観察していただけに、この「切り替え」の早さには戸惑いすら覚えることがあった。

このように「切り替え」の上手いベトナムの政治文化からすれば、今後も様々な政治的駆け引きはあろうが、対立や軋轢を克服し、和解し、そして一致団結して、トー・ラム新体制の下で政治的安定の回復に向かうのではないかと、筆者にはそのように思われるのである。

高所得国になるための「生みの苦しみ」

本稿の締めくくりには、改めて指摘したいのは、故チョン書記長が主導し、トー・ラム新書記長に引き継がれた「反腐敗キャンペーン」は、ベトナムが、腐敗という社会制度に巣くう構造問題を克服し、海外から質の高い投資を受け入れ、2045年の独立100周年までの高所得国入りという大目標を達成するためには不可欠の大事業だということである。

腐敗克服は、伝統的なアジア社会が近代化するためには避けて通れない課題である。日本にも、疑獄事件が相次いだ時代があった。そして、今もベトナムだけではなく多くのアジア諸国が腐敗克服に取り組んでいる。

腐敗克服に向けた道程は、これからも決して平坦ではないかもしれないが、ダイナミズムに溢れるベトナム経済は、指導者交代劇の真只中である2024年第一四半期には5.7%、第二四半期には6.9%の成長を達成した。ADBなどによる2024年通年の成長予想も6%台が維持されている。

ベトナム人材の勤勉さ、理数系能力の高さ、技術革新への適応力、旺盛なチャレンジ精神、そして「和解と団結」の政治文化に鑑みれば、ベトナムが、今後も平均6%台の成長を継続し、「中進国の罫」を乗り越えて2045年までの高所得国入りという大目標を達成する可能性はあると筆者は見ている。そして、最近の「反腐敗キャンペーン」に起因する政治的混乱は、そのための「生みの苦しみ」なのかもしれない。

(この原稿は、2024年9月7日に一般財団法人「霞関会」のホームページに掲載された原稿を加筆修正したものです。)

第4回 ベトナム人学生・青年対象作文コンテスト 報告

テーマ「日本へ来る前の印象と来日してからの違い」

弊協会は、在日ベトナム学生青年協会（VYSA）と共催で、第4回日本語作文コンテストを行いました。

生成AIが発達した現在、作文コンテストの開催は難しく、テーマを工夫して、いかに自分の体験を作文にしてもらえるかに苦慮しました。

そこでテーマを考えるうえで、VYSA アン会長とも相談をして、次のテーマに決めました。

日本は外国人から「選ばれる日本」になることが言われていますが、そこでベトナム人の若者が「日本に来る前の印象と来日してからの印象の違い」を書いてもらおうとなり、応募要領をベトナム語に翻訳して募集しました。

募集テーマの意が十分伝わったか？以前に比べて応募者が少ない結果となりました。

応募者は社会人、大学生、専門学校生、日本語学校生、技能実習生と幅広く応募いただきました。

審査は、これまでの作文コンテストでお願いしてきた松下博幸氏（日本語教師）にお願いしました。

選考結果	氏名	所属
最優秀賞	チャン・ティ・リエン	帝京大学 経済学部
優秀賞	ブイ・ゴク・イエン	与野日本語学校
優秀賞	ヴォ・ティ・キエウ・ホア	国際情報経済専門学校
入賞（あかり会賞）	グエン・ティ・トゥ・ホアイ	富士桜事業協同組合勤務
VYSA 賞	グエン レ タム ドアン	東京外国語大学
佳作	4点	

入選作品5点及び日本の旅館でのインターンシップから帰国したハノイ大学学生2名から寄稿を頂きましたので、機関誌ベトナム2024-2025に掲載しました。

表彰式は、2月下旬（予定）に開催いたします。

日本に来る前と来た後

帝京大学 経済学部
TRAN THI LINH

高校時代の自分を思い返すと、私は理系から歴史専攻に変更したのを覚えています。

なぜなら、歴史を学ぶことで、未来に役立つ教訓を得られると考えたからです。

その過程で日本の歴史にも興味を持ち、特に日本の急速な経済成長が気になります。

日本は歴史の教訓を活かす以外に、どんな秘訣で発展を遂げたのか考えさせられます。だからこそ、日本に留学して、その秘訣を学び、高度な教育を受けたいです。また先進国の人々や文化に触れることで、将来自国の発展に貢献できるようになりたいと思っています。

そして、2020年の11月ようやく日本に来られました。毎日日本語が飛び交う環境にはじめては戸惑いもありましたが、現在、問題なく生活できるレベルになることで、その環境を楽しむことができます。語学や専門だけではなく、日本ではベトナムでは経験できないことを沢山経験し、日本独自文化を間近で触れました。今日は、日本に来る前と来た後の驚き、感じたことについて書きたいと思います。

まず、私が一番驚き、不思議に思ったのは、多くの日本人が麺を食べるときにすすって食べることで

す。来日する前に、日本では電車の中や食事中は静かにしているという話を聞きました。しかし、日本での生活が始まった頃、ラーメン屋に来ていたお客さんたちは、男女関係なく、大きな音を立てながら麺をすすって食べているのを見ました。その光景にとっても驚き、「なぜそんなにすすって食べるの?」と思ってしまいました。

日本人にとってすすって食べることは当たり前なのかもしれませんが、そんな習慣がない外国人の私には不思議に感じる出来事でした。その不思議さの理由は、ベトナムに「フォー」という麺料理があり、フォーを食べるときは絶対に音を立てないように気をつける文化があるからです。

この疑問を日本語学校の先生に直接聞いたところ、すすって食べる文化について教えてもらって、深く理解できました。この文化を知る前は「不思議だなあ」と思っていたのですが、今はそんなに気にならなくなりました。日本に来て3年以上経ちますが、文化や価値観、ライフスタイルが国によって異なることを改めて実感しています。大切なのは、お互いの文化を否定せずに理解することかもしれません。

トラブルを避けるためにも、日本とベトナムの文化の違いをしっかりと把握し、その違いを楽しむことが重要だと思います。

次に、日本に来る前と後で感じたことは、日本人の優しさです。来る前に、日本人が優しいとよく耳にしていたのですが、その優しさがどれほどのものかは全くわかりませんでした。

そこで、コロナで四つの壁に囲まれた部屋で隔離されていたとき、初めて日本人の優しさを感じました。

具体的には、先輩が紹介してくれた中古品を売っているおじいさんの優しさです。その時、私は隔離

中でしたが、おじいさんは全く迷惑そうにせず、むしろとても親切に接してくれました。私が隔離中で外出できないことを知っていたので、おじいさんは頻繁に食べ物や果物を買って、私の家の前に置いてくれました。

最初は「もしかして悪い人で、私を利用しようとしているのでは?」と思いましたが、しばらく接するうちに、なぜこんなに親切にしてくれるのか尋ねました。するとおじいさんは「私は君だけじゃなく、全ての人にそうしているんだ。私たちは同じ人間だから、与えることは受け取ることなんだよ」と答えてくれました。

おじいさんと3年間の付き合いがあり、様々なことを教えてもらったり、助けてもらったりしましたが、今年の5月に彼は天国に旅立ちました。その日、私は日本での青春の一部を失ったように感じました。

しかし、おじいさんの優しさと、私を支えてくれた貴重な言葉は決して忘れられません。おじいさんがいなくなっても、日本のおかげで、優しさがあふれていると感じており、感謝しています。私は優しいおじいさんのような人になりたい、そして、日本人の優しさを世界の友達に伝えたいと思っています。

最後に皆さんに伝えたいことがあります。

皆さんは大きな夢と希望を胸に日本に来られたと思います。しかし、日本でも素敵なことばかりではないです。カルチャーショックしたり、日本語がうまく話せなかったり、落ち込んだり、恥ずかしい思いをしたり、どうしていいか分からなくなったりします。でもそれは当たり前です。

だって、私たちが追いかけるものは夢です。簡単に手に入れるのは夢じゃないです。かなり遠回りをしましたが、何が言いたいかと言うと何があっても諦めないでください。

諦めたいときに将来の夢と日本に来た理由を考えてください。ということです。夢を叶えるまで追いかけてください。私もそうです。

人生は山あり谷あり、今苦しくても、辛くても楽になる時が必ず来ます。こっちぶつかりあっちぶつかりしながら、そんな人生にも意味があります。嬉しいことはもちろん、困る時に他の人にシェアしてほしいです。絶対助けてくれる人がいるからです。愛情は私たちの中の憎しみを消し去り、皆と真心のこもった感情を分かち合うことで、お互いをより深く理解する助けとなります。

また、困難を乗り越え、成功へと導く力でもあると信じます。

日本は訪れる価値のある場所です。

国際情報経済専門学校

VO THI KIEU HOA ヴォ ティ キエウ ホア

私の旅は、はじまったばかりです。日出ずる国に6か月以上住みました。こんなに長い間家族のもとから離れたのは初めてです。これまで映画、写真、本、新聞などでしか見ていなかった国へ来ました。小さいころから私は日本へ一回行きたいと思っていました。私がまだ子供なのに、なぜ日本へ来たいと思ったのか誰もが疑問に思うことでしょう。みなさんも子供の頃に少なくとも一度はアニメを見たことがあると思います。日本のアニメとマンガは有名です。伝統的な着物などの衣装を着てみたいです。それから寿司、刺身、天ぷらなどの日本料理を食べてみたいです。それに、茶道、華道、寺院建築など日本独特の文化芸術的価値観を体験したいです。そしてこれらは私が日本を好きな最初の理由でもあります。2番目の理由はかなり面白いです。アニメの登場人物が「北海道に行きたい」と言っていました。それから「北海道」という名前がとても気になりました。そして私は両親と一緒に北海道へ行きたいと話しました。

私が想像していた北海道は、冬になると雪に覆われ、とても美しい場所でした。春になると鮮やかな色の花が咲きます。成長してから旅したいのは桜の国だけではなく、韓国や、中国などです。しかし、私が一番に行きたい場所はやはり日本でした。私は、たくさんのベトナムの大学試験に合格しました。しかし、入学しませんでした。そして、私は日本への留学を決意し、そこで美しい青春を経験し学びながら過ごしたいと思いました。しかし、まずは両親を説得することだろうと考えました。家族はよくニュースを見ます。だいたい日本で天災が起きます。たとえば地震とか、津波とか、台風です。それに、日本に親戚も友達もいませんし、一人ぼっちだったので、両親はとても心配していました。ですが、絶対に行きたいため、自分を大切にすることを誓いました。そしてようやく家族の同意を得ました。

私は日本へくるために荷物を準備しました。日本に来た初日はとても幸せで、言葉では言い表せないような気持ちになりました。飛行機を降りてまわりを見ました。11月でしたが、少し寒かったです。思っていたのと少し違いました。しかし、周囲の風景は私の想像に非常に近かったです。家、木、店はアニメのものと同じでした。

私が特に注目しているのは、日本人のコミュニケーションと行動です。人に会うとき、よくお辞儀をするので、相手が常に尊重されているという感覚を生み出します。それが、私が日本をとても好きな理由でもあります。また、日本は私に四季を体験することがどのようなものかを見せてくれました。それぞれの季節には独自の特徴があります。春になれば桜が咲き、夏になればアジサイが咲きます。秋が到来し、穏やかな空気を感じさせる紅葉の季節。冬は色とりどりの椿の花が咲く季節です。私の一番好きな季節と言えば、秋かもしれません。秋になると徐々に涼しくなり、自然の風景が色鮮やかになり、ロマンチックな景色が広がるからです。

次に私の想像と違うのは、毎年恒例の伝統的なテトの祝日です。日本はアジアの国です。しかし、日本の伝統的な新年は太陽暦の毎年1月1日に行われます。ベトナムや他のアジア諸国とは違います。しかし、ひとつだけ同じなのは、家族全員が集まるということです。

そして次に驚いたのが「4」という数字の意味です。日本に住んでいて、勉強して、働いている人なら誰でも知っているでしょう。日本では数字の「4」の存在は大きなタブーであり、不吉な数字とみなされています。

それから乗り物です。ベトナムでは私たちの日常の乗り物はバイクですが、日本ではときどき道路でバイクを数台見かける程度です。移動手段は電車、自転車、車がほとんどです。日本の電車に乗る体験も面白いです。

最後にごみの分別です。日本がとてもきれいな国だということもみなさん、よくご存知でしょう。そのために、この日出ずる国は廃棄物分別ガイドラインを適用し、より清潔で美しい環境の保護に貢献しています。自由にゴミ箱にゴミを捨てられるベトナムとは異なり、日本では燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別するという規律が与えられています。これは私たちがより規律を保つのに役立っています。

私から皆さんに一言。機会があれば一度日本に来て、安全地帯から離れたところで体験してもっと面白いものを見つけてください。私は美しい青春時代をこの場所で学び、経験し、探索するために費やします。私がとても気に入っている英語のことわざを紹介します。「If you can dream it, you can do it.」みんなもできるよ、桜の花の国を征服しましょう。

日本へ来る前と来日してからの印象

与野学院日本語学校
ブイ・ゴク・イエン

子供の頃から憧れていた国、日本に足を踏み入れることができたのは、私にとって大きな成功です。子供の頃の私にとって、日本はアニメのように夢のある場所でした。日本が提供する価値に惹かれて、私は幼い頃から日本が大好きでした。日本は、『名探偵コナン』や『ドラえもん』などの有名な漫画を私にもたらせてくれました。私の心の中の日本は、高層ビルや、まだベトナムに存在しない先進的な公共交通機関がある便利な場所です。また、日本には春の桜、初夏のアジサイ、秋の紅葉など、季節ごとに異なる美しい花があり、その景観は人々を感動させます。日本に行く前に、私は日本に来たらやりたいことのリストを作成しました。日本での留学を考えると、毎日が待ち遠しく、早く日本に行って、この国をより深く理解したいと考えていました。もちろん、「日本人は冷たくて近寄りたくない」とか、「日本人はベトナム人が好きではない」といったネガティブな情報も耳にしましたが、私はそれを信じることはなく、自分の目で確かめ、彼らとコミュニケーションを取りたいと願っていました。

そして、ついにその日がやってきました。日本に到着すると、ベトナムとは異なるインフラや高速道路の発達に驚かされました。私は埼玉県の小さな町、春日部に住むことになりました。

春日部は、クレヨンしんちゃんの故郷でもあり、静かで落ち着いた街です。他の留学生よりも幸運だったのは、近くに家族が住んでいたおかげで、たくさんの体験をすることができたことです。日本に来た初めの頃、電車に乗ったり、回転寿司を食べたり、そして何よりもディズニーランドに行くことができました。ディズニーのアニメ映画を見た子供なら誰もが一度は訪れたいと思う場所です。自動化の進歩や巨大な遊園地は私を圧倒させましたが、それだけではありません。日本人のサービス精神にも感動しました。

小さなレストランでも大きなレストランでも、どこに行っても温かく迎えてくれました。日本に来たばかりで、私の日本語はまだ拙かったのですが、彼らは辛抱強く説明してくれました。日本人と接する中で、彼らの温かさや助け合いの精神を感じることができました。そして、彼らはベトナム人を嫌っているのではなく、一部の不適切な行動をする人々を嫌っているだけだということに気づきました。

ある日、私は新幹線の切符を買おうとしていましたが、漢字が多すぎて理解できずに困っていました。隣で切符を買っていた日本人の男性に助けを求めたところ、その方はただ切符を買ってくれるだけでなく、ホームまで案内してくれました。この出来事が私の日本への好意と尊敬の気持ちをさらに高めました。また、私は在日ベトナム学生青年会に参加し、鴻巣での花見や浅草でのそば打ち体験など、さまざまな体験をすることができました。日本のさまざまな場所を訪れるたびに、私はスタンプを集めるためのノートを購入し、それぞれの場所を訪れた記念としてスタンプを押しています。日本は私に安らぎを与えてくれる一方で、刺激的な瞬間も提供してくれました。そして何より、日本は私を強くし、新しいことに挑戦する勇気を与えてくれました。今この瞬間、私は日本に留学し、この国について多くのことを学べたことに感謝しています。ベトナムには「行けば学べる」ということわざがありますが、日本のおかげで、私は自分自身のより良いバージョンに成長することができました。

将来は、大阪の古城や北海道での雪合戦など、日本の他の場所も探索したいと考えています。

また、もっと多くの日本人と友達になりたいです。私は、自分の日本でやりたいことリストをすべて達成するために、日本語のスキルを磨き、さらに一生懸命働くつもりです。

日本に来る前と来た後の感想

富士桜事業協同組合
グエン・ティ・トゥ・ホアイ

日本に来る前、日本に関する私の知識と言えば、大学の授業で聞いた日本文化の話とお寿司などの日本食、それに可愛いキャラクターの話ぐらいでした。でも、日本に来て生活するようになると、経験を通じて私が知らなかった日本をたくさん知るようになりました。

5年前、自信を持ち、夢や希望に満ちた若者でしたが、同時に新しい生活に直面することへの不安や恐れもあったことを、今でも忘れません。

まず、優しさが感じられる色の日本には優しく笑顔が素敵なお年寄りが沢山います。初めて日本のスーパーに入った時、あるお爺さんがニコニコして私に声をかけてきました。

「こんにちは！外国人ですか？」

「はい、ベトナムの留学生です。昨日日本に来たばかりです。」

「そう、頑張ってるねえ！」短い会話でしたが、私は思わず笑顔になりました。

また、ある日、アルバイトの帰りにコンビニに寄った時、急に雨が降り出したことがありました。その時突然、あるおばあさんが、傘がなく困っている私に気づき、傘を持ってきてくれました。そして私に分かりやすいように、ゆっくりと話してくれました。「風邪をひかないように、この傘を使ってね。」と。その夏の雨は、暖かい人間の愛が感じられる雨でした。

日本に来る前に本やインターネットで知った日本人のイメージは冷たく、あまり感情がないというものでした。でも、それは違ってたと、実際の経験から感じました。

次に私が感じる日本の色は愛の色です。私は70-80歳ぐらい老夫婦が手をつないで通りを歩いたり、電車を降りるときお爺さんがおばあさんを支えたりする姿を見ました。それを見て、この人達の愛は静かで、穏やかで、何十年も続いているのだ、と感じました。

便利な交通システム

日本に来たとき、その発展した交通システムに驚かされました。新幹線、電車、バス、地下鉄など多くの交通手段があり、時間の正確さも保証されています。これにより、私達は移動手段を選ぶ際に、時間や遅延を心配することなく、安心して利用できます。

時間を守る文化

日本に来て、最も驚いたのは日本人の時間を守る文化です。仕事でも生活でも、その厳格な時間厳守は顕著です。ある日、友達と10時に待ち合わせをしたのですが、遅れるのが心配で9時45分には到着しました。既に皆さん到着していて、私は最後に着いた人でした。また、私が働いている会社では、8時から仕事が始まりますが、殆どの方が7時30分には会社に来て、準備を始めていました。時間通りに到着することが、むしろ遅れているように感じさせられます。

さて、今度は、私にとっての暗い色という涙の色です。日本はいつの間にか私に成長することを教えてくれます。故郷を離れて、新しい環境で生活し、知らない人々と知り合い、一人で何でもやらなければならないことなどです。言いたいことが相手に上手く伝わらないとき、とてもガッカリしてしまいます。家族も友達も側にいないし、仕事はとて大変で厳しいこともあるし、何より勉強も大変でプレッシャーになります。先が見えない未来が心配で眠れない夜もあります。暗い夜、仕事帰りのバスの中でこのような悔しさや寂しさの涙が突然流れてきます。

それらの色の全てが私の目に美しい日本を描きます。日本の文化や人々、自然に触れることで、自分自身も成長し、視野が広がったと感じています。これからも日本での経験を大切に、学んだことを活かして行きたいと思えます。

来日前の日本と来日後の日本

東京外国語大学
グエン レ タム ドアン

目を閉じたら、桜色の花曇が見えた。

ベッドで寝ていたはずなのに、なぜか近所の公園で立っていた。近くのベンチに座ったのは、来日したばかりの4月の自分の様子だと気づいた。これはまさに夢の中だと思いながら、一人で花見をしていたその自分に声をかけた。

「おはよう。私は9月の貴方だよ。日本はどう？思っていた通り？」

「来たばかりだからまだ何も感じていないかな」小声で答えてくれた。

「質問を変えるね。日本に来る前に何か期待している？」

「…日本に留学するのは、10年以上の夢だった。ずっと頑張っ、ついに国費留学生として漫画・アニメやドラマの日本ではなく、本物の日本に来た。日本での生活は、この桜のようなピンクなものではないのをいつも心に刻んでいた。でも何年も調べ、十分に日本のことを知っているの、自分はきっと大丈夫になると信じている。それ以外に期待することはない」より自信を持った声を聞き、少し安心した。「じゃあ、そっちの予想外のことは？」

「寧ろ沢山あるよ」

少し時間を取って答えた。

「実際には、私、つまりこれからの貴方は日本で一人暮らしの生活を思ったより堪能しているよ。一人で自分の舌に合う料理とパンを作ったり、寮の狭い部屋で好きな曲を流しながら課題を解いたり、気分転換したいなら街を彷徨ったり、生きる糧である推しに会ったりすることから毎日の喜びを見つけるよ。

しかし、前向きに新しい生活を楽しんでいても、どれだけこの人生のターニングポイントへの心の準備をしたものの、やはりしんどいと感じることはないと言ったら嘘になる。内向的な性格や文化の違いのせいで、日本語でのコミュニケーションがうまくいかない時もあった。さらに、ベトナムでの友達との繋がりがどんどん薄くなり、いつか完全に切れる日を待つしかないと分かった。また、将来という出口が不明の迷宮に囲まれ、自分が決めた道で迷ったり止まったりする日々が繰り返し、息苦しくなりながら自信と希望が掌から零れるのに無力感を覚えたことは何回もある」

心配そうな顔をしている自分を見て、思わず笑い、言葉を続ける。

「でも予想外なのは辛いことだけではない。一番驚いたのは、日本で色々な素敵な人々との出会いができて、皆は私に優しく接してくれて、私の心を何度も温めてくれながらいっぱい力を与えてくれたことだ。なので、これから何が起こっても乗り越えられる気がするよ。だから、貴方もきっと大丈夫だよ」

突然、タイムリミットのようなものを感じ、それを言い残し、やっと微笑んでいた春の自分に手を振った。

目を覚ますと、支子色の落ち葉が見える。

自分の髪を撫でているのは花の香りが漂う春の風ではなく、しつこい残暑の風だと気づいた瞬間、現実に戻ったと知っていた。日本に住む半年間は瞬きのようにだったと改めて実感した。

そして、今日も東京のどこかにある町で小さな幸せの欠片を集めていく。平々凡々な日常を歩みながら。

日本へ行く前のイメージと、来日後の違い(想像していた日本と実際の日本) 私は城崎温泉で1年間インターンシップをしました。

ハノイ大学日本語学部
ズオン タオ ヴァン

私はインターンシップで、1年間兵庫県の城崎温泉「おけ庄」という旅館で働きながら、日本語の実践勉強をしました。日本に来る前、日本に対する期待と同時に、内心多少の不安を抱えていました。

日本といえば、仕事や生活においても、常に真摯に取り組み、几帳面さと完璧を追求する国民性がよく知られています。そのため、私の中では、日本人はどこか冷たく、他人に対しても厳格で、完璧であることを求められるのではないかと想像していました。

特に、日本は礼儀と規律を重んじる文化であることから、私とそのルールに適応できなかつたり、誤解や失敗をしてしまった場合、周囲の人々に迷惑をかけるのではないかと心配していました。そのため、初めての環境で慣れなまま過ごすことに対するプレッシャーを感じていたのです。

しかし、日本での生活が始まると、それまで抱いていたイメージとは大きく異なる現実が私を待っていました。

日本で出会った人々は皆さん非常に温かく、穏やかで、親切心にあふれていて、相手を思いやる心遣いがとても丁寧であると感じました。日本人の皆さんは確かに礼儀と秩序を大切に、相手を敬う姿勢を崩さず行動されますが、何よりも他人に対する優しさや心配りが随所に表れていると実感しました。私が生活に慣れるまで、いくつかの誤解や失敗を重ねてしまうことがありましたが、その際も周囲の人は決して厳しく叱ることなく、むしろ優しく寄り添いながら適切なアドバイスをくださいました。

言葉の壁に戸惑っているとき、また日本の生活習慣に慣れない場面に直面した時はそっと手を差し伸べてくださる人がいつも近くにいました。皆さんのご支援と励ましがあつたおかげで、私は日本の社会に少しずつ溶け込むことができました。特に心に残っているのは、出会う人がいつも明るく笑顔で迎えてくださる姿です。心のこもった笑顔は、異国の地にいる私にとって大きな安心感と信頼を与えてくださり、まるで家族のような温かさを感じさせてくれました。また、観光地へ連れて行ってくれた時や日本文化・伝統的な料理などを教えてくれる時も、異国にいながらも日本の日常を存分に感じさせていただけのおかげで、孤独を感じることなく、心豊かな日々を過ごすことができました。



城崎温泉

中でも、「おけ庄」の三船ご夫妻、川直様、川鉄様には心からの感謝をお伝えしたいと思います。

皆さんは私が日本での生活や学業が順調に馴染めるよう、さまざまな面で惜しみないサポートを提供してくださいました。三船ご夫妻は休日には自宅にご招待くださり、日本の行事や風習について親切に教えてくださいました。また、川直様や川鉄様も、日本の学業や生活において困難に直面したときに、温かく励ましていただきました。失敗をしても心配はいらないと優しくおっしゃり、むしろ挑戦し続ける姿勢の大切さを私に示してくださいるその姿に、大変勇気づけられました。

このような貴重な体験を通じて、私は日本に対する先入観と現実の違いを深く理解することができました。

日本の皆さんは規律と礼儀を大切にしつつも、相手を思いやる温かな心を持ちと優しさをもって接してくださいる方が多いことを知りました。この学びは私の人生観に大きな影響を与え、他者に対する尊重と共感の大切さを改めて考える貴重な機会となりました。

異国での生活を通じて、真の日本文化と人々の温かさに触れることができたことは、大変光栄であり、私の人生において大切な思い出として心に残り続けることです。

日本へ行く前と来日後 東京へ行ったとき

私はインターンシップで来日し、帰国しました。

ハノイ大学日本語学部
Pham Thi Ngan

私は地方の旅館で一年間のインターンシップを終えて、最近ベトナム（ハノイ）に帰国したばかりです。この一年間、日本で過ごしたことは私にとって本当に素晴らしいものでした。

休日には様々な場所を訪れ、いろいろな新しいことを実際に感じる事ができました。これらの貴重な経験を通じて、より広い視野を持つことができました。これから、皆さんにその中の一つをご紹介しますと思います。

私は日本の地方の旅館でインターンシップをしましたから、休日を利用して、2024年2月に初めて東京に足を踏み入れたときは、この街の壮大さと賑やかさに本当に圧倒されました。

東京が世界で最も発展し、人口が多い都市の一つであることは事前に動画や写真で知っていましたが、実際に目の当たりにすると、そのすべてが私の想像を超えていました。

超高層ビル、輝く広告看板、そして忙しそうに行き交う人々が織りなす新宿の光景は、非常に活気に満ちていました。私は街の中心に立ち、四方を見回し、心を奪われました。

東京の生活のペースは本当に速く、エネルギーに満ち溢れていました。人々は常に忙しく、次から次へと迅速に移動していました。その一步一步には緊迫感と急ぎの気持ちを感じられました。私がこれまで知っていた静かな生活とは対照的で、新しい世界に足を踏み入れたような気分になりました。

海外に行ったことがなかった私にとって、大都市である東京に初めていったことで、自分がこの広大な世界に対して本当に小さく感じました。東京の賑やかさと活気は、外の世界が実際に非常に広大で多様であることを認識させてくれました。私の視野が広がり、学ぶべきこと、探求すべきことがまだまだたくさんあることに気づかされました。

このように、東京という都市を直接見て体験することで、私は世界の発展と現代性についてより深く理解することができました。

東京での初めての経験は、ただ圧倒されるだけでなく、大きなインスピレーションとなり、広大な世界をもっと学び、探求しようという気持ちを引き出してくれました。この街の絶え間ない活気を感じ、そんな素晴らしい体験ができることに本当に感謝しています。



初めて行った東京 新宿



初めて行った東京ドーム

在留ベトナム人 新型コロナ前と現状の比較<2019/6と2024/6> 増加する「特定技能」「技・人・国」 減少する「留学生」

野村侑平（早稲田大学大学院生 教育学研究科 博士後期課程）

	2024年6月			2019年6月		
	全在留外国人	ベトナム人	(ベトナム人比率%)	全在留外国人	ベトナム人	(ベトナム人比率%)
在留資格						
総数	3,588,956	600,348	16.73	2,829,416	371,755	13.13
留学	368,589	43,760	減少 11.87	336,847	82,266	24.42
技能実習生	425,714	203,760	47.91	367,709	189,021	51.41
特定技能	251,747	126,832	増加 50.38	20	7	35.00
技・人・国	394,295	101,674	増加 25.79	256,414	44,670	17.42
永住者	902,203	25,919	2.87	783,513	16,651	2.13
その他	1,246,408	98,196	7.88	1,084,913	39,140	3.61

「特定技能」「技・人・国」が大きく増加して、「留学生」が大きく減少しています。

今後の展開予想：特定技能が増加することが予想されます。

ベトナムで特定技能技術試験が行われることが決まりました。以下に在ベトナム日本国大使館が発表しているHPから抜粋してお知らせします。

ベトナムで特定技能技術試験等が始まりました。

以下は在ベトナム日本国大使館のHPから情報を抜粋しています。

詳しくは日本国大使館のHPをご覧ください。

○飲食料品製造分野

ハノイ： 2025年2月25日（火）以降順次開催

ホーチミン：2025年2月12日（水）以降順次開催

○外食技能分野

ハノイ： 2024年12月10日（火）以降順次開催

ホーチミン：2024年12月10日（火）以降順次開催

○建設分野

ハノイ： 2024年8月1日（木）以降順次開催

ホーチミン：2024年8月1日（木）以降順次開催

○農業技能分野

ハノイ： 2024年5月24日（金）以降順次開催

ホーチミン：2024年7月9日（火）以降順次開催

○宿泊分野1号

ハノイ： 2024年5月24日（金）以降順次開催

ホーチミン：2024年7月9日（火）以降順次開催

○宿泊分野2号

（宿泊施設において複数の従業員を指導しながら、フロント、企画・広報、接客、レストランサービス等の業務に2年以上従事した実務経験が必要）実務経験がない方などは、**宿泊分野1号**の受験をしてください。

ハノイ： 2024年7月3日（水）以降順次開催

ホーチミン：2024年7月9日（火）以降順次開催

○自動車整備分野

ハノイ： 2024年5月24日（金）以降順次開催

ホーチミン：2024年7月9日（火）以降順次開催

○介護技能評価試験及び介護日本語評価試験の2つの試験

ハノイ： 2024年4月25日（木）以降順次開催

ホーチミン：2024年7月9日（火）以降順次開催

池袋ベトナムフェスティバル Pray For Japan 2024

—能登半島地震支援 ベトナムと共に被災地を応援しよう— 2024.4.6-7



**池袋
ベトナムフェスティバル
Pray for
Japan
2024**

能登半島地震支援
ベトナムと共に被災地を応援しよう

令和6年石川県能登半島地震 復興支援イベントとして開催。チャリティ・フード・音楽・交流をキーワードにベトナムと共に被災地を応援する。また、被災地に寄り添い、「生活再建」を応援。「おいしく・楽しく・温かく」を趣旨として支援金を集め、温かく美味しい食事を被災地に届けエンタメイベントを開催。

4.6 SAT - 7 SUN
池袋西口公園野外劇場
グローバルリングシアター
6日, 10:00~20:00 / 7日, 10:00~19:00
※雨天決行、荒天中止

主催：池袋ベトナムフェスティバル Pray For Japan 2024実行委員会
共催：駐日ベトナム大使館
最高顧問：福田康夫（元内閣総理大臣）
実行委員長：ファム・クアン・ヒエウ（駐日ベトナム大使）
共同委員長：青柳隆一郎（衆議院議員）
後援：ベトナム外務省、ベトナム文化スポーツ観光省、外務省、
出入国在留管理庁、東京都、豊島区、国際機関日本アセスンセンター、
一般財団法人日本アジア共同体文化協力機構、毎日新聞社
メインパートナー：ベトナム航空

詳しい情報は公式サイトをご覧ください ▶▶ <https://ikebukuro.vietfes.asia/>
情報随時更新中!! f vietfes.ikebukuro t @vf_ikebukuro i @vietfes_ikebukuro

2024年も4月6日～7日、関東地区で最初?のベトナムフェスティバルが池袋で開催されました。

今年のテーマは、
—能登半島地震支援 ベトナムと共に被災地を応援しよう—です。

池袋ベトナムフェスティバルは2023年に初めて開催されて、今回が2回目。

会場が池袋西口公園野外劇場とちょっと狭いですが、池袋駅からすぐ近くでもあり参加者は、2013年が8万人（主催者発表）と。

2024年は2023年に比べると日本人の参加がやや減少気味、在留ベトナム人の参加が多く、一見ベトナム人の同窓会的雰囲気でした。

ベトナムフェスティバルは、だれを目的にしたものか?

日本人にベトナムを知ってもらうためか? 在留ベトナム人に祖国を思い出させるものなのか?

どこのフェスティバルも内容が似通ってきています。

そろそろ内容見直しの時期かなと感じました。



ベトナム伝統芸能、最新音楽や食文化が代々木に集結！ ベトナムフェスティバル 2024

代々木公園 2024.6.1-2



わが国で最も歴史があるベトナムフェスティバルが2024年6月1日～2日代々木公園で、夏を思わせる日差しの中で開催されました。

2008年以來、毎年開催しているベトナムフェスティバルは、ベトナム政府が唯一公認する海外の交流イベントです。国内最大規模のベトナム交流事業として、両国VIPを招待した式典に始まり、イベントを通じて経済・観光・文化・人的交流など様々な分野において両国関係を活性化する場として定着しています。

『ベトナムフェスティバル2024』は、ベトナムの楽しさ、美しさを日本人に伝え、在留ベトナム人と日本人の交流、日本企業とベトナム企業の関係構築を図り、日越文化交流のプラットフォームとしての役割を果たしています。昨年の日越外交関係樹立50周年を経て、より深化していくベトナムフェスティバル。

皆様のお越しをお待ちしています。(ネット記事より)



開会式は、盛山文科大臣、ベトナムスポーツ文化観光省トゥイ副大臣、山口公明党代表(当時)等をお迎えして、実行委員長ファム・クアン・ヒエウ氏(駐日ベトナム大使)共同委員長青柳陽一郎氏(衆議院議員)で行われた。

弊協会から山中代表理事、湯下副会長、梅田副会長、川島常務理事、小川常務理事、貞弘理事等が参加した。



ベトナムフェスタ in 神奈川 「交流の華ひらく ～美しきベトナム～」

2024.9.6-8

＜経済プログラム＞ 9月6日

1. ベトナム投資環境セミナー
2. ビジネス交流会
3. 交流会（ガラディナー）

＜文化交流プログラム＞ 9月7～8日

会場：日本大通り 神奈川県庁本庁舎 象の鼻パーク 象の鼻テラス

・食で愉しむ・ベトナム水上人形・ライブステージ・よさこいパフォーマンス・ベトナム伝統芸能パフォーマンス・ベトナム人スピーチコンテスト・ベトナムの遊び体験・ベトナムレクチャークラス・ベトナムの魅力発信ブースなど。

イベントを通じて神奈川とベトナムの両地域の相互理解を深め、将来にわたる両地域の継続的な成長と発展を目的に、2015年から開催。ベトナム人留学生をはじめとする日本に住むベトナム人やベトナムにゆかりのある方々とともに、より一層のベトナムの魅力発信を目指している。弊協会は後援、協賛しています。



Kanagawa Festival in DANANG

2024.11.14

ベトナム南中部の都市ダナン（ホテル三日月）で、Kanagawa Festival in Danangが開催されました。会場では、黒岩知事による神奈川の魅力紹介や、学生による対抗プレゼンテーション、日本ベトナム人留学生とのオンライン交流会など、若者を対象にしたフェスティバルが開催され、会場には400人の学生が集まりました。

学生による対抗プレゼンテーションは、

今年のテーマ：私たちが描く10年後のベトナムと日本の未来

～越日の共栄のために私たちが今後歩いていくキャリアとは～

発表学生チーム：ダナン外国語大学、ダナン建築大学、ドンア大学、ズイタン大学、フエ外国語大学、高校生選抜など。

フエ外国語大学の学生とは、VJCT日本語会話トレーニングをおこなっていることもあり、約50名の学生が参加しました。



学生の対抗プレゼンテーション



フエ外国語大学の学生

Kanagawa Festival in HANOI

2024.11.16-17



挨拶：伊藤大使

Kanagawa festival in Hanoi はホアンキェム湖の側、「戦没者記念像前広場」で、「交流の華ひらく～美しき神奈川」をテーマに開催されました。2日間とも好天に恵まれ約9万人の来場がありました。

開会式にはハノイ市人民委員会、ベトナム友好協会フン副会長（元日本大使）や伊藤大使・黒岩知事など大勢が参加しました。

会場では、小田原ゆかりの風魔忍者ショー・日本語カラオケ大会・阿波踊りショー・浴衣・着物ショー、コスプレコンテスト・浴衣着付け・日本の遊び体験等に多くのベトナム人が集まっています。

今年もハノイ大学CCJLCの協力で運営した「漢字・習字ブース」は、ひっきりなしの来場が続き、日本の漢字や習字体験には子供から大人まで人気があることがわかりました。

今年は来越中の欧米人もたくさん参加し、日本の習字体験を喜んでいました。



黒岩知事と一緒に習字



ベトナム共産党中央委員会グエン・フー・チョン書記長の死を悼む弔問

2024年7月26-27日 駐日ベトナム大使館弔問受付 (写真一部 VOVより)

ベトナム共産党最高指導者のグエン・フー・チョン書記長が7月19日、首都ハノイ市内の病院で、老衰と病気のため死去したと発表した。80歳だった。在日ベトナム大使館には政府関係者や外交官だけでなく、一般の日本人もたくさん弔問に訪れました。

7月25日にハノイ市国家葬儀場で国葬が始まり、午前7時から初日の告別式が執り行われた。告別式には、老若男女を問わず全国から大勢の国民が集まり、国のために死の直前まで尽力した偉大な最高指導者に敬意を表し、安らかな眠りを祈る姿が見られた。



ハノイ 長く続く弔問の列



在日ベトナム大使館に弔問に訪れる自衛隊の幕僚長。



弊協会から 小川常務理事、小松みゆき理事等が弔問した。

在ベトナム日本国大使館 広報文化センター 公開中

在ベトナム日本国大使館広報文化センターでは、2階に日本人形・着物・図書室等があり、日本文化の広報コーナーを作っています。現在誰でも入館ができるようになっています。

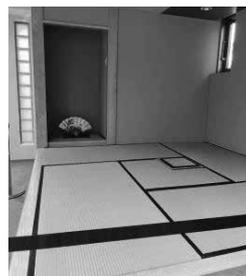
お知り合いの在ベトナムの方にご案内ください。



この入口から、お入り下さい。



図書室 「少年ジャンプ」もたくさんあります。



詳細をお知りた方は、
下記QR から検索ください。



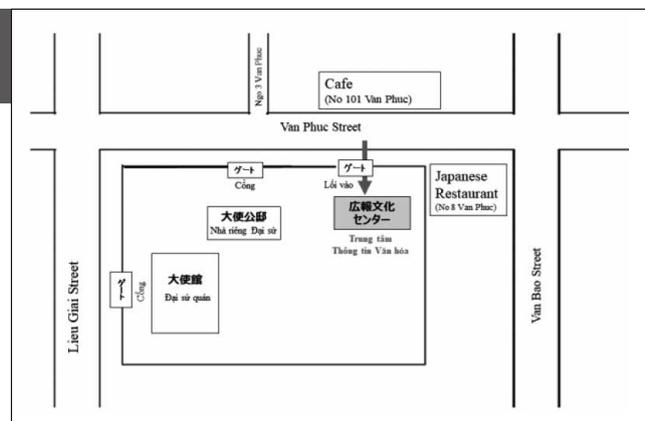
大使館
(広文センター)



大使館
(face book)

入口にご注意ください。
右記の地図をご覧ください。

- 一般に開放する施設
- 図書室 セミナールーム (大) (中)
- 展示ルーム 茶室 (制限してる場合あり)
- 利用時間
- (月)~(金) (休館日を除く)
- 9:30~11:30 13:30~16:30
- 入館方法
- 事前予約は不要です。
- 身分証明書又は旅券をご持参ください。



VIETJO 2024.12.3 号転載

ベトナム政府

大規模な国家構造改革方針、省庁の統合・解体で 5 省を削減へ

・計画投資省と財政省を統合・交通運輸省と建設省を統合・労働傷病兵社会省を解体など

ベトナム共産党のレ・ミン・フン中央組織委員長は、国家構造改革・効率化に関する2017年10月25日付けの党中央執行委員会の決議第18号-NQ/TWの実施について、1日に開かれた会議で大規模な再編方針を明らかにした。

省庁レベルの再編方針は以下の通り。

- ◇計画投資省と財政省を統合。
- ◇交通運輸省と建設省を統合。
- ◇情報通信省と科学技術省を統合。同2省の一部の任務は文化スポーツ観光省、教育訓練省、その他の関連機関に移管。
- ◇資源環境省と農業農村開発省を統合。同2省の一部の任務は関連機関に移管。
- ◇労働傷病兵社会省を解体。同省の任務は内務省、教育訓練省、政府傘下民族委員会、その他の関連機関に移管。
- ◇企業における国家資本管理委員会（CMSC、通称：スーパー委員会）を解散。CMSCの任務は財政省、その他の関連機関に移管。
- ◇国家財政監視委員会（NFSC）を解散。NFSCの任務は財政省、ベトナム国家銀行（中央銀行）、その他の関連機関に移管。
- ◇政府傘下の宗教部を政府傘下の民族委員会に移管し、民族・宗教委員会とする。
- ◇国家行政学院をホーチミン国家政治学院に合併。
- ◇ベトナム通信社（VNA）、ベトナムの声放送局（VOV）、ベトナムマルチメディア総公社（VTC）のテレビ部門を解散し、ベトナム国営テレビ局（VTV）に合併。

党は国家構造改革により、予算配分の再編を実現し、生産性を向上させる考えだ。
2025年3月までに最終案の策定の完了を目指す。

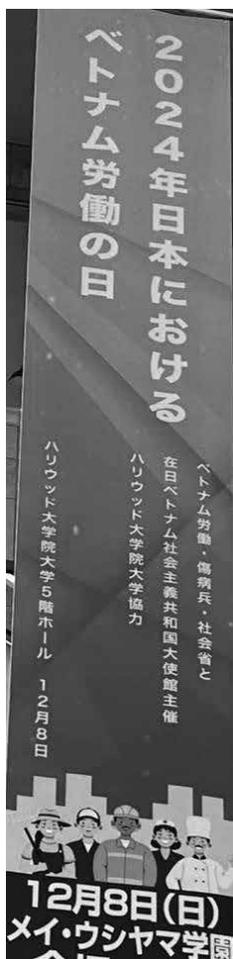
「2024 日本におけるベトナム労働者の日」開催

東京 六本木 2024.12.8

12月8日六本木のハリウッドプラザ5階ホールで、在日ベトナム人の労働者の日が開催されました。ヒエウ駐日ベトナム大使、ベトナム労働・傷病兵・社会省からホアン副大臣、日本から法務省出入管国在留管理庁君塚審議官、厚労省奥村国際労働交渉官などをお迎えして、在日ベトナム人労働者（技能実習生、特定技能、EPA、技・人・国者等）400人を超える人たちが参加して、初めて労働者を励ますイベントが開催されました。

会場には、ベトナム人を雇用する会社の人も一緒に参加し、熱気に溢れていました。我が国は、高齢化で人口減少の中、外国人の労働者がいなくては、立ち行かない経済になっており、特にベトナム人は、親日家であり類似点が多いことから現在43万人の労働者が働いています。

式典に続いて、ベトナム人労働者約20名が表彰されました。



ご挨拶

ベトナム労働・傷病兵・社会省 グエン・バ・ホアン副大臣

ベトナムは1993年から日本へ労働者を送り出してきました。近年、日本で働く技能実習生や労働者はベトナムから海外に送り出す労働者全体の50%以上を占めています。これまで約60万人の技能実習生や労働者を日本へ送り出しています。ベトナム人労働者は、その技術と勤勉さが高く評価され、高齢化が急速に進み、殆どの産業分野で人材補充の重要な役割を果たしています。

また、日本の受入れ側は、ベトナム人技能実習生や労働者の素早い学習能力、高いスキル、規律をまもるなどを高く評価されます。多く技能実習生や労働者が日本で就労経験を通じて成長し活躍しています。彼らベトナムと日本の架け橋となり、両国友好関係発展に貢献しています。

このような成果を達成できたのは、このプログラムに対する政府の関心、労働者や技能実習生派遣・研修に尽力している関係機関や企業の努力、そして両国国民の関心と支持のおかげです。労働分野における協力の枠組みを整備するため、ベトナム労働・傷病兵・社会問題省と日本の関係機関は、技能実習生や労働者を日本に派遣し、働きながら学ぶ機会を提供することを目的とした複数の協力協定を締結してきました。

特に、2020年以降、ベトナム政府は海外で働く労働者の権利をより適切に保護するため重要な政策改正を行い、「海外で契約に基づき働くベトナム人労働者法（第69号法）」およびその実施に関する指針を発布しました。また、日本政府も外国人労働者の受け入れ政策を、労働者にとってより有利な方向に調整しています。現在、両国は社会保険協定締結に向けた交渉を進めているほか、育成就労制度の協定書締結に向けて促進しています。

これらは、今後ますます強化される両国間の労働協力の発展において、重要な基盤となるものです。

皆さま、そして労働者皆さんへ 現在、日本政府と日本国民は、外国人労働者に対する関心と支援を強化し、「共生社会」構築に取り組んでいます。その中で、ベトナム技能実習生や労働者は、自身の能力を伸ばし、自己実現やキャリア形成に努め、日本企業発展と繁栄に貢献するとともに、両国民間の友好関係発展にも寄与することを望んでいます。

そのため、私は日本の受入れ企業の皆様に対し、技能実習生やベトナム人労働者日々業務と生活にさらに配慮いただくことを強くお願い申し上げます。特に、現在円安や物価高騰といった困難な状況下に

において、労働者の福利厚生制度を改善し、待遇を向上させることが重要です。

一方で、日本で働いているベトナム人労働者の皆さんが、日本語能力を向上させ、仕事をマスターし、スキルや技術を磨く努力を続ければ、ベトナムと日本人材協力において重要な役割を果たす。若いベトナム人労働者が日本を働く場所として選び、成長していく未来が広がります。日本で働くことが「働くが辛い、帰国が恋しくなる」という状況から脱却する日も近いと期待しています。

この機会に、日本で働き、学んでいる技能実習生やベトナム人労働者の皆さんに一言申し上げたいと思います。日本での生活、学習、仕事の時間、皆さん人生において忘れられない思い出となることでしょう。この貴重な機会を最大限に活用し、発展した国での知識やスキルを学び、真面目でプロフェッショナルな働き方や、日本人の素晴らしい特性を身につけてください。

また、私、両国政策における前向きな変化が、ベトナムと日本の労働協力を新たな発展段階へと押し上げ、より高く、より強固な関係へと導くことを確信しています。その中で、ベトナム人労働者の合法的な権利と利益がより確実に守られ、労働者が出国前に適切に選抜・訓練され、日本で働く期間中も継続的に訓練を受けることで、ベトナムと日本の双方にとって貴重な人材となるでしょう。改めて、皆様と在日ベトナム人労働者の皆さんのご健康、ご成功、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。そして、「在日ベトナム人労働の日2024」の成功を祈念いたします。



400人以上のベトナム人労働者で会場は大盛況



ヒエウ大使・ホアン労働副大臣から表彰を受ける。



ヒエウ大使、ホアン労働副大臣と受賞者の記念撮影

在日ベトナム伝統文化芸術協会発足

この協会は、日本で生まれ育ったベトナム人の子供たちの
何世代にもわたって文化的伝統を保存し、促進したいと願う
在日ベトナム人家族の増加を背景に誕生しました。

2024.11.30

11月30日、在日ベトナム大使館で、在日ベトナム伝統文化芸術協会（ベトラク）の設立式典が行われた。この協会は、日本で生まれ育ったベトナム人の子供たちの世代のために、ベトナム国民の文化的伝統を保存し、促進したいという希望を表明する在日ベトナム人家族がますます増えていることを背景に誕生しました。

創立式典で駐日ベトナム大使のファム・クアン・ヒエウ氏は、協会の誕生は日本のベトナム人コミュニティの成長発展にとって非常に重要な要素であり、協会の発展に貢献していると述べた。大使は議長に強調した ホーチミン「文化は国家の道を照らす」と述べ、文化は重要な要素であり、国家の発展だけでなく、現在の深い国際統合の状況において国の交流と国際統合を促進する絆でもあります。大使館は、文化的伝統が非常に豊かな国でもある日本におけるベトナム伝統文化協会の誕生を高く評価しており、両国の国民が今日これほど良好な関係を保っているという事実も、この交流による大きな貢献であると考えています。そして両国間の文化交流。

ファム・クアン・ヒエウ大使は、協会の活動が文化的価値観を持って祖国や国に向けて地域社会を團結させるのに役立つとの期待を表明した。大使は協会に対し、会員数の拡大を継続し、文化分野、特に伝統芸術と文化における地位と資格を向上させるよう求めた。大使は、協会の設立が在日ベトナム青年の温かい支援を受け、多くの在日ベトナム青年の参加を集めたことに喜びを表明した。協会の会員をベトナム人に限定するだけでなく、その範囲を日本の芸術家や文化関係者にも拡大すべきであると提案した。それは両国間の関係を深め、ベトナムの文化的宝を豊かにするでしょう。

在日ベトナム伝統文化芸術協会名誉会長のトラン・ヴァン・トー教授は、現時点での協会設立は必要かつ時宜を得たものであると述べた。教授によれば、ベトナム文化の美しさを継承・促進し、人々が自分たちの起源の歴史と文化を認識し、それによって故郷の水とつながり、精神的な生活を豊かにする機会を創出する組織が必要だという。教授は、この協会がベトナムの二世、三世の人々がベトナムを理解し、愛し、芸術や文化を理解することを通じて、本来の歴史や文化に誇りを持つようになるための組織でもあると信じています。トラン・ヴァン・トー教授はまた、協会のもう一つの重要な役割として、日本文化機関との交流を促進し、ベトナムの文化・芸術を紹介し、日本の文化・芸術を学び吸収し、国内との架け橋となることを挙げた。文化施設を整備し、ベトナムと日本の文化交流の促進に貢献します。

同協会会長のドー・カイン・ハン女史は、協会の誕生は日本におけるベトナム人の誇りある文化的・芸術的価値観を讃え広め、ベトナム人コミュニティの強化に貢献する新たな旅の始まりであると語った。ベトナムと日本の友好協力関係の強化に貢献するとともに、日本で團結し、エネルギーに富み、発展し、祖国に向けて前進することを目指します。

この記事はTTXVNのネットニュースから転載しました。



ヒエウ大使からドー・カイン・ハン会長へ花束贈呈



第18回ベトナム語スピーチコンテスト

神田外語大学 春日 淳

2024年11月2日（土）に『第18回ベトナム語スピーチコンテスト』が本学ミレニアムホールにて開催されました。高校、専門学校、大学など7校から約20名が出場し、カテゴリーA、Eでは詩の朗読、カテゴリーB～Dでは所定のテーマに沿ったベトナム語のスピーチが披露されました。

休憩時には神田外語大学の在学生によるトルン演奏や歌などが披露され、コンテストの合間に伝統文化を楽しみました。本コンテストの結果は以下をご覧ください。

- (1) 参加校：東京外国語大学、大阪大学、昭和女子大学、国士館大学、立命館アジア太平洋大学、関東国際高等学校、京都外国語専門学校、神田外語大学（計8校）
- (2) 後援：駐日ベトナム社会主義共和国大使館
- (3) 協賛：イオン（株）、（株）三進インターナショナル、SANSHIN VIETNAM JSC、ベトナム航空、VOVベトナムの声放送局、ホテル三日月グループ、HONTO TV、（株）ロッテ（五十音順）
- (4) 開会の辞：岩井 美佐紀先生（東南アジア三言語専攻長）
- (5) 挨拶：駐日ベトナム社会主義共和国大使館一等書記官 ヴー・ティ・リエン・フォン氏
- (6) 審査員：ヴェー・ティ・リエン・フォン氏（同上）リユー・アイン・トゥアン氏（VOVベトナムの声放送局）
- (7) 表彰状授与・閉会の辞：宮内 孝久（神田外語大学学長）
- (8) 結果



最優秀賞 スピーチ部門：カテゴリーB～Dより1名

安藤 鳳馬（大阪大学4年）

優秀賞 詩の朗読部門：カテゴリーAから1名

菅原 早桔（神田外語大学1年）

各カテゴリー入賞者

カテゴリーA【詩の朗読部門】（1年生・高校生：エントリー10名）

2位 住岡 凜々子（東京外国語大学1年）

3位 前田 向葵（大阪大学1年）

カテゴリーB【2年生スピーチ部門】（エントリー1名）

1位 三浦 功太郎（立命館アジア太平洋大学2年）

カテゴリーC【留学未経験者3・4年生のスピーチ部門】（エントリー2名）

1位 芝原 言美（神田外語大学3年）

2位 古作 優果（神田外語大学4年）

カテゴリーD【留学経験者3・4年生のスピーチ部門】（エントリー5名）

1位 内藤 碧（東京外国語大学4年）

2位 池本 仁美（東京外国語大学4年）

3位 ソン ガウン（昭和女子大学4年）

カテゴリーE【親がベトナム人の高校生・学生のスピーチ部門】（エントリー3名）

1位 福島 幸代（大阪大学2年）

2位 太田 美月（神田外語大学1年）

3位 香川 奈穂（京都外国語専門学校1年）



NASIC カップ 日本語スピーチコンテスト

8 大学 13 名が参加

ハノイ大学にて 2024.11.21
一般財団法人学生サポートセンター

11月21日、一般財団法人学生サポートセンター（協力：(株)学生情報センター）は、第15回 NASIC 日本語スピーチコンテストをハノイ大会場で行われました。

今年のテーマは「私にとって一番大切なこと（もの）」

参加は、ハノイ大学、ハノイ国家大学外国語大学、ハノイ国家大学人文社会科学大学、ハノイ貿易大学、ハノイ工科大学、タンロン大学、FPT 大学、ハロン大学から代表13名が参加して決戦が行われました。

開会式は、吉野学生サポートセンター理事（(株)学生情報センター社長）の開会挨拶に続き、ハノイ大学ズン副学長、日本大使館神谷広報文化部長のご来賓挨拶後、参加学生の緊張が伝わる中で、コンテストが始まりました。

審査は、日本語による話し方、スピーチ内容・態度、質疑応答などを総合的に判断して、上位5名を日本招待の副賞を差し上げるという豪華なコンテストです。

随行の先生の、学生に「上手くやって」と念じる姿が印象的でドキドキの瞬間でした。

結果	最優秀賞	ドー・クアン・カイ (ハノイ国家大学外国語大学)
	優 秀 賞	ダオ・グエン・ハー・アイン (ハノイ大学)
	〃	チャン・ミン・ドゥック (ハノイ工科大学)
	〃	ゴー・ニャット・ミン (FPT 大学)
	〃	ラー・ティ・カン・リー (ハノイ大学)



参加 8 大学13名の学生

スピーチする学生



審査員の先生



最優秀賞：ドー・クアン・カイ
(ハノイ国家大学外国語大学)

ベトナム人留学生 山梨県小菅村へ行く

2024.4.13 小川弘行
在日ベトナム学生青年協会

東京の桜が散ったころ、山梨県小菅村は満開に。
そんな4月13日(土)ベトナム人留学生40人とベトナム大使館フォン教育部長、日本語会話の日本人先生、小松みゆき理事など約50人で山梨県小菅村を観光バスで訪問しました。

山梨県小菅村と聞いて何を思いますか？ 東京都奥多摩市の隣り、人口約650人の小さな山合の村、多摩川の源流、水がきれい、桜は満開。会場に到着すると、用意されたバーベキュー会場で、地元で捕れたヤマメ等で船木村長及び教育委員会から大歓迎を受けました。

ベトナム人留学生は、村民及び村の子供たちとバンブーダンスなどで交流。お土産交換は、ベトナムからバランストンプ、小菅村から鹿の皮や角の材料を頂き、自分で作るキーホルダー。

小菅村で働くベトナム人技能実習生4名も加わり、あっという間の時間が経過、バスに乗車し帰路につきました。

また会いましょう。ヘン ガップライ。



バーベキュー会場 挨拶：フォン教育部長



ベトナム人留学生と船木村長



アオザイ紹介



左から小川・教育長・小松理事・船木村長・フォン教育部長・VYSAフォンさん・松下先生・アンVYSA会長

都立園芸高校の生徒 16 名 ベトナムダントップ省を訪問 ベトナムレクチャーに参加

東京都教育委員会海外学校間交流推進校に指定されている都立園芸高校の生徒16名がベトナムドンタップ省へスタディーツアー（7月24日～30日）に訪問予定。

その最終の事前レクチャーが7月11日に同校内で行う案内があり、ドンタップ省（ベトナム南西部）に詳しいタオさん（元VYSA役員）を帯同して、ベトナムの情報や旅の注意点等を話してきました。

神田外語学院からハイ先生等が参加し、やさしいベトナム語の指導も行われました。

日本の高校生が観光とは違う形でベトナムの地方の省と交流推進することは、とても素晴らしいことだと思い喜んで参上しました。

同校は、1908年東京府立園芸高校（世田谷区深沢）として開校。校内には昭和天皇お手植えの松や、盆栽場には樹齢500年を超える徳川三代将軍家光公御遺愛の盆栽（五葉松）がありました。

家光公御遺愛の盆栽は、2027国際園芸博覧会（横浜市）に出展とか？



ベトナム協会小川弘行



7/11 ベトナム・ベトナム語レクチャー



指導員と校長先生&生徒たち



都立園芸高校入口の銀杏並木



三代将軍家光公御遺愛の盆栽（五葉松）

VJCT ボランティア日本語会話トレーニング 学生と先生の交流 先生からの声

2021年9月からスタートしたVJCT（ボランティア日本語会話トレーニング）は、コロナ渦でベトナムでの日本イベントはなくなり、ベトナム人学生が、せっかく学んだ日本語を試す機会もないため、オンラインで日本語会話をしてはと、始めたのがVJCTです。

最初はハノイ大学CCJLCの学生とはじめましたが、翌年フエ外国語大学も参加したいと、これまでに約530人の学生がオンラインでの日本語会話に参加しました。



ご指導頂いている先生は、とても熱心で、学生ともすっかりお友達になって頂いています。最近、特に交換留学生やインターシップで日本に来る学生が増えています。

日本へ行く前に日本人の先生と会話をして、安心して日本へ行くようにと考えている学生も増えた気がします。また、学生の来日後、交流を深める先生も多くいらっしゃいます。

このページでは、日本語会話の先生と学生の交流について頂いたメールからご紹介します。

斎藤博先生から頂きました。

フエ外国語大学との日本語会話プログラムの初回のときに私が担当した学生（現在4年生）が9月から水戸市にある常磐大学に1年間の交換留学をしてきました。私が担当したときはまだ日本語会話力が弱く、コミュニケーションをとるのが難しかった記憶があります。

彼女から、留学するというメッセージが4月ごろ届き、日本に来るに当たっての心配事などをやりとりしました。大学の寮に入れることになったと喜んでいました。

この大学は事前に交通方法をメールでおくって頂きましたが、成田から一人で大学まで移動させました。

来日当初、メッセージを数回やりとりし、大学生活を楽しんでいるようなので、その後は連絡しませんでした。

11月20日に先生の日のお祝いメッセージが届き、生活の様子を聞きました。そうしたら、アルバイトをして生活費を工面する予定で来日したのに、学校がアルバイト禁止なので、大変で不安です、「でも、親切な日本人に出会えて、たくさん助けてくれたので、私はとても幸運でした。」という返事です。

奨学金は1万円、寮費は25万円で4月から値上がりするとのことでした。

その親切な日本人は私も知っている2人で、一人は村田みのりさん（日本語会話の先生です）で、もう一人は、フエのリエン日本語学校の生徒たちを受け入れる活動をしていた故・横井久美子さんのグループの人でした。この2人とフエ外大が常磐大学にアルバイトを許可してくれと頼んでくれたそうです。

大学は会議を開いた結果、アルバイト禁止は学則だ、半年間勉強して2月に帰国するべきだという回答でした。

彼女は日本で勉強したいと再度訴えた結果、1年間の留学を認められましたがアルバイト禁止のままです。

この大学への留学生は20人ぐらいで、彼女以外は半年間の交換留学だそうです。また、数年前にフエ外大から1名留学生が来ていますが、そのときはコロナの最中で国や自治体から支援金がでたため、このアルバイト問題は顕在化しなかったようです。

村田さんが関わっておられるし、水戸は離れているので、私はサポートが必要だったら言ってくださいと伝えるのにとどめ、ときどき様子を訊いています。最近のメッセージは「私にとってたぶん今が一番大変な時期だと思うので、全力で乗り越えていきたいと思います」というものです。

高田昇一先生から頂きました。

本プログラムでお近づきとなった学生さんの中には、現在も交流が続いている方々がいらっしゃいますが、そのうちのお一人が現在日本にインターンとして来日されていることから、再会することができました。その方とは、今年の新暦の新年に家族でベトナムに行ったときにお会いしており、家族ぐるみのお付き合いとなっています。

いずれにしましても、本プログラムで生まれた、新たな絆とご縁は、大切にしたいと思います。

村田みのり先生から頂きました。

昨日はフエ外国語大学の2人に加えて、現在茨城大学に留学しているハノイ大学の学生と、常磐大学に留学しているフエ外国語大学の2人が参加して、会話の練習をすることができました。ベトナム在住の学生にとってはいい刺激になり、留学中の先輩たちから、よく考えているとか、まだ2年生なのに素晴らしいと言われて、とても喜んでいました。

来週が今シーズン最終ですが、ハノイ大学のレッスンにも留学生が参加してくれます。こんな展開もあるのかと少し嬉しく思いました。

フエ外国語大学 第2回日本語スピーチコンテスト実施の報告

袋井ベトナム友好協会
富永 茂

FVFA（袋井ベトナム友好協会、会長 太田芳春）では、令和6年度事業として、フエ外国語大学と第2回日本語スピーチコンテストを実施した。

昨年は、日越外交樹立50周年を記念して、10年ぶりの袋井ベトナム訪問団事業の中で、フエ外国語大学との共同開催により、大学内で「第1回日本語スピーチコンテスト」を実施した。

初めて実施した日本語スピーチコンテストであったが、フエ外国語大学関係者からも高い評価をいただき、先方が懸念している日本語人気の低下状況打開のサポートとして、袋井ベトナム友好協会では、2024年度も事業計画として、第2回日本語スピーチコンテストに取り組んだ。

第2回日本語スピーチコンテストでは、事前にフエ外国語大学日本語日本文化学部関係者と打合せを行い、毎週数クラスを開催している日本語オンライン交流との相乗効果を発揮する企画に練り上げ、本年11月9日（土）に、フエ外国語大学講堂と日本をオンラインツール（ZOOM）で繋ぎ、初となる日越間ハイブリッド運営形式で当日に臨んだ。

今回は、テーマを「a. 日本文化の魅力とは」「b. デジタル技術の活用で日本をさらに知る」の選択制とし、事前の書類審査を通過した8名が、会場となる講堂で、1人8分のプレゼンテーションと日越双方の参加者からの質疑応答に応える内容で進んだ。

また、発表内容は、在ダナン日本国総領事館総領事 森 健朗氏、トゥア・ティエン・フエ省越日友好協会会長 ド・ティー・ミー・チャウ氏、袋井商工会議所会頭 豊田浩子氏らの日越それぞれにいる審査員がオンライン形式で審査を行った。

昨年とは違う形式で戸惑う点もあったが、審査の結果は、フエ外国語大学日本語日本文化学部日本語学科2年生のNgô Vũ Phương Ngọc（ゴ・ヴ・フォン・ゴック）さんが、「デジタル時代における日本文化の探求」と題した内容が優勝の榮譽に輝き、2025年1月21日（火）～28日（月）に初の日本並びに静岡県・袋井市訪問が予定されている。

特に今回感慨深かったのは、審査員の最終審査での調整の間に、昨年度の第1回日本語スピーチコンテスト優勝者で、現在日本の岐阜大学留学生となっているトゥアさんからの現況報告であった。彼女は、FVFAのオンライン日本語交流参加、スピーチコンテストの優勝、その特典として設けられた招待旅行で日本初来日、そして現在の留学生生活と、我々との関わりでこの1年間に様々な体験をし、更に日本語の上達レベルが自他共認める成長を遂げた。

新型コロナ禍蔓延の影響で、日本人ネイティブによる日本語に触れる機会がなくなったことから、我々とフエ外国語大学とで、やむなくスタートした代替側面があるオンライン事業であったが、日越間のリアルとバーチャルの世界のどちらでも、日本語を学ぶベトナム大学生の日本への更なる興味や関心の高まりや外国語習得の意欲向上に寄与できれば、誠に嬉しい限りである。



優勝者 ゴックさん



昨年度優勝者 トゥアさん

オンライン参加者の様子



コンテストを終えての記念撮影

報告 国際芸術シンポジウム in ハノイ

法人会員 (株) 20G
担当 片岡 哲兵

国際総合芸術交流協会（理事長 志知正通）主催、運営：(株) 20G の『国際芸術シンポジウム』が、テト（旧正月）を間近にした1/19（日）20（月）、バッチャン陶芸博物館と、ハノイ大学で開催されました。日本全国から、書家、指の墨絵師、切り絵、クラフトなど多彩なアーティストとご家族など80人（最高齢92才）が、ハノイを訪問して、ベトナムの学生や子供に実演、来場者と一緒にパフォーマンスを行い、日越文化の親善交流を行いました。（ハノイへ参加出来なかった人も多く、出展者は200人を超えました。）



バッチャン陶芸博物館記念写真

開会式には、ベトナム日本友好協会副会長グエン フー ビン氏（元在日ベトナム大使）ハノイ手芸協会ピン会長、ハノイ大学チャオ学長、駐ベトナム日本国大使館神谷広報文化部長、国際交流基金所長など多数が参加しました。



越日友好協会副会長（元駐日ベトナム大使）グエン フー ビン氏



国際総合芸術交流協会理事長 志知正通氏



ハノイ手芸協会会長 バッチャン陶芸博物館館長
Ha Thi VINH氏



駐ベトナム日本国大使館
広報文化部長神谷直子氏



ハノイ大学学長
グエン ヴァン チャオ氏

団体報告

アーティストは、各ブースに分かれてパフォーマンスを行い、参加者はアーティストが作り上げる作品に感嘆の声を上げ、一緒に作った作品を大事そうに、笑顔で持って帰る姿が印象的でした。きっとテト（旧正月）の飾りの中に展示することでしょう。

各先生には通訳者がつき丁寧に参加者に説明していましたが、言葉は通じなくても、文化は共通言語で両国が一つになった瞬間でもありました。



ベトナムの学生や子どもたちの素直な態度にアーティストの先生方も感激。ハノイ大学をバスで去る際は、多くの学生が手を振って見送ってくれた姿も感動的でした。

『ヘン Gallupライ』また会いましょうの言葉でベトナムを後にしました。

ベトナム協会さんには名義後援をお願いしました。ありがとうございました。



一般社団法人
大阪ベトナム友好協会

一般社団法人大阪ベトナム友好協会
理事長 仲山 典男

【協会概要】

当協会は日越夫婦を中心として活動しており、ベトナムの素晴らしき多様性のある文化を多くの日本のみなさまにお伝えし、両国の交流がより深くなることを願って文化交流活動を中心に取り組んでおります。大阪ベトナム友好協会の事務所がある今里地区は大阪で最もベトナム人が多く住む地域であるため、地域に住むベトナム人にとっても住み良い環境づくりに貢献していきたいと考えております。

【この1年の主な活動】

大阪春節祭2024 から始まり、愛知県での一宮七夕まつりなどでのトナム獅子舞、ベトナム歌謡、ベトナム舞踊などでの出演を中心に、メンバーも増えたことにより、複数チームでの参加を行ない各種日越文化交流の活動に力を入れて来ました。



ベトナムフェスティバル大阪2024 では実行委員会として宣伝部を担わせていただき、運営面でもご協力させていただきました。当協会の会長のVan によるベトナム歌謡、副会長によるベトナム伝統楽器演奏など、役員自らの出演に対して会場から大きなご声援をいただきました。



【各種ベトナム芸能文化の出演】

従来からのベトナム歌舞団出身の日越夫婦に加えて、同じく歌舞団出身者の若手メンバーがベトナム舞踊、ベトナム伝統楽器演奏で加わり、それぞれ2チーム体制にて運用が出来るようになりました。今後もベトナム関連イベントにこだわらず、より多くの方々がベトナム文化の一端として本格的なベトナム文化を楽しんでいただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。



【最後に】

当協会は、ビジネスでの交流というよりは、市民活動としての文化交流活動を主軸にしており、ベトナムのことをよく知らない方々にも多様性のあるベトナム文化の素晴らしさをお伝えし、日本に住む日本人とベトナム人が相互理解していくためのお手伝いが出来ればと考えております。



Feel Vietnam

ベトナム料理教室、フルーツカービング教室など
日本とベトナムの文化交流を中心に活動しています。
ホーチミン市国立ボンセン歌舞団出身のメンバーによる
本格的なベトナム舞踊もお届けしています。



一般社団法人
大阪ベトナム友好協会

■お問い合わせはメールにて
E-mail info@osakavietnam.xii.jp



VYSA (在日ベトナム学生青年協会) 2025年 新役員体制決まる

1月11日(土)会場：東京情報センター（上野）で、VYSAの総会・旧正月祭（テト）が行われ、アン会長（2024年）から、2025年の新会長にNgo Thi Anh Tuyetさん（トゥエット・帝京大学）が就任したと発表がありました。

副会長には、総務担当Dam Lan Anh（アイン・立教大学）、事業担当 Phan Tran Bao Vy（ブイ東京国際大学）の2名が就任し、トゥエット新会長から2025年の計画が発表されました。

今では、全国で日本とベトナムの交流が行われていますが、2001年VYSAが設立した頃は、ベトナム人留学生も全国に700～800人程度と少なく、細々と運営をしていました。しかしVYSAの活動が基になり、今では全国でベトナムフェスティバルが開催されたり、文化交流が盛んに行われるようになりました。

VYSAは若い時の一時的なコミュニティですが、VYSAを卒業して、社会人として形を変えた団体などへと変化して日越交流は拡大を続けています。VYSAは在留ベトナム人コミュニティにとって、生みの親的な存在になっています。今後益々の活躍をお祈りします。



挨拶
2025トゥエット新会長



祝辞：ベトナム大使館
ヴァー・ティ・リエン・
フォン教育部長



発表するアン2024会長



アイン2025副会長



ヴィ 2025副会長

挨拶 2025VYSA 会長

Ngo Thi Anh Tuyet

こんにちは！

帝京大学3年生のゴ・ティ・アイン・トゥエットと申します。2025年度、在日ベトナム学生青年協会（VYSA）の会長を務めさせていただくこととなりました。

私はこれまで日本で学び、働く中で、多くの困難や挑戦に直面してきましたが、そのたびに人とのつながりや支えの大切さを実感してきました。そして、VYSAがこれまで築き上げてきた伝統と信頼を受け継ぎ、さらに成熟した協会、そしてより強固なコミュニティへと発展させることを使命として、この役割をお引き受けしました。

2025年度のVYSAは、従来の文化・スポーツ・進学・就職支援活動に加え、在日ベトナム人コミュニティの地位向上と、次世代を担う若者たちへの実践的なサポートを重視していきます。また、協会活動の効率性を高め、すべてのメンバーが安心して参加し、成長できる環境づくりを進めてまいります。

VYSAは単なる学生団体ではなく、日本とベトナムを結ぶ架け橋としての役割も担っています。文化や言語、習慣の違いを超えて、お互いを理解し、尊重し合うことが、両国のさらなる発展につながると信じています。今までの経験を活かし、責任感と誠意を持って協会運営に取り組み、すべてのメンバーが誇りを持つVYSAを築いていくことをここにお約束いたします。

VYSAの使命や活動を達成するためには、何よりも皆様のご協力やご支援を心よりお願い申し上げます。そして、共に成長し、新たな未来を築いていけることを楽しみにしています。



2025新 VYSA 役員

史上初 ベトナム ハノイ郊外にて採燈護摩供・火渡り出仕記

天台宗 普賢寺 住職 小野 常 寛

ベトナムのハノイ郊外（ハナム省）にタム・チュック寺という、ディズニーランド10個分（50㌔）という莫大な土地の寺があります。ありがたいご縁がありまして、そこで実施された、「ベトナム日本仏教文化交流イベント」の一貫である採燈護摩供に出仕させて頂きました。一人の日本人僧侶として参加した所感をこちらにまとめます。

衝撃の広さ

まず度肝を抜かれたのは、敷地、堂宇や仏像などの衝撃的な広さと大きさでした。見渡す限りの山と湖の全てがお寺。しかも完成は6年前という新しさです。ベトナム屈指の建設会社を手掛ける資産家が約500億円をかけて建立されました。そのオーナーはインド、スリランカ、タイ、日本など他の仏教国にも旅をされていて色々な寺院から影響を受けて、これらの堂宇を建てられたとのことでした。堂内の釈迦如来像は東大寺の盧舎那仏を彷彿させるような作りとなっております。この時代にこんなものが建つのか、と驚愕したのでした。

ベトナム仏教と日本仏教の類似性

ベトナムは、日本と同じ中国経由で伝来した大乘仏教国です。東南アジアでは唯一の大乘仏教国です。名目上は社会主義国であるベトナムではありますが、街中の至るところにお寺やお墓はあり、先祖供養や葬儀を大切にすることも日本と一緒です。ベトナム仏教は禅と浄土が主流であり、日本のような宗派というものが特にはありません。実際にお寺に行くと、日本よりも儒教、道教色が強いことが感じられます。一方、他の大乘仏教国同様しっかりと戒律が守られており、日本仏教も学ぶことが多くあります。空港や都市部でもチベット僧侶を見る機会が多くなり、チベット仏教も最近は普及していることが見受けられます。

さて、採燈護摩とは、日本独自の修験道の修法であります。修験道は、神道、仏教、道教などが混合してできあがった山林を修行道場として捉える独特の信仰形態を持ちます。火渡りにおいても「擬死体



験」と称し、渡る時には一度自分自身は死んだものだと思います、渡った後は生まれ変わったものとして、人生を歩みだすわけです。通常、火渡りの時には密教の真言（呪文）を唱えて、参加者の無事や諸願成就を祈ります。しかし、今回はベトナム尼僧のタム・チーさんが発音して、ベトナム語の「南無阿弥陀仏」である「ナムアジダファット」をベトナム人と一緒に唱えました。修験道において「南無阿弥陀仏」と念仏することは日本では考えられませんが、ベトナムの地ならではの信仰や祈りが交わって実現されたわけです。僧侶の目線からすると、この共通体験が極めて重要であるのです。このような共通の原体験を持つことによって、心の距離も近づき、真の交流が可能となるのです。そして、共に平和を希求する気持ちや慈しみの心が生まれてくるのです。これから日本とベトナムの仏教交流が益々深まっていくことを願うばかりです。

修験の奥行き

私自身は未熟な存在なので語る資格などはないのですが、今回の法要において修験道の深さと広がりの可能性を再確認しました。世界中のどこでも山や森や川はあり、人類とアニミズム的つながりは、このVUCAの時代に一層必要なものになると感じました。無常なる時代の羅針盤は、情報ではなく「個々人の原体験」であることは、世界のアニミズムの存在こそがその証左でありましょう。その土地その土地に、霊性なるものがあり神話として語り継がれてきた。それらと感応できる手段が必ず必要で、それをずっと実施して蓄えてきたのが修験道や土着信仰なのかもしれません。

その意味において、修験道はきっと世界中のどこでもつながる可能性を持っているのかもしれません。

寺と僧侶をセットで考える

今回、実はこの広大な寺院の僧侶とお会いすることがありませんでした。1人だけいらっしゃるとお聞きしました。この規模であれば僧侶は100人位いてもおかしくないレベルです。しかし、資産家のオーナーが建立したこともあって僧団としての機能がないことが見受けられるのです。仏教は仏法僧がそろって仏教であるので、この寺に生涯を捧げるような僧侶がいらっしゃらないのは大きな課題であるように感じました。日本の霊山と言われる霊山や本山には未だに多くの修行が根付き、修行者たちが勤しんでいます。その姿や存在こそが霊山たらしめるものでありましょう。「人こそが宝である」と言った伝教大師の言葉が思い出されます。そして、これだけの伽藍や環境が整えられた場所であるからこそ、沢山の僧侶であふれるような寺院になってほしいと心から願うばかりであります。

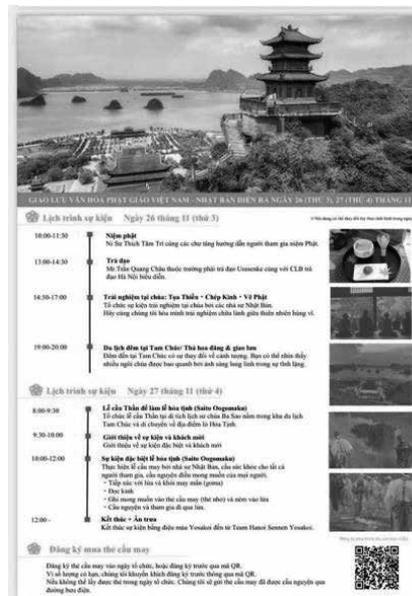
桁違いの寄進

こちらのオーナーにもお会いしましたが、とても純朴で、想いもしっかりしていて資産家のイメージが覆ったのでした。それと同時に、今の日本で仏教にこの規模の寄進をする資産家はいらっしゃるのだろうか、と考えました。日本には歴史が古く、壮大な寺は沢山ありますが、今の時代に建立されるお寺を考えると、桁違いの大きさなのです。仏教の世界は寄進で成り立っています。仏教僧侶は非所得、非所有が基本ですので、檀信徒や庇護者がいなければ成立しないのです。一般の方の庇護のもと、私たちは修行に邁進することができるのです。現在も世界の仏教国であるチベットやタイのお寺を見ても、日本とは桁違いの寺を現在建立中であつたりします。果たして、今の日本仏教はこれだけの寄進に値する存

在意義を確立できているのだろうか、と顧みることになり、現状の日本仏教を見直す機会ともなったのでした。

日本僧侶としての役割

日本の僧侶は、世界で最も「俗的」で「多様」な僧侶であります。禅、浄土、密教、法華、華嚴、唯識などの教えを有しています。長い歴史によって、それぞれの教団が深めていった教義や行法は唯一無二なものがあります。反面、僧侶の妻帯や世襲が認められているのです。一般の方とあまり変わらない生活をしているとも言えます。言い換えれば、俗的であるが故に一般の方の架け橋となる可能性を秘めているのです。だからこそ、それが宝の持ち腐れにならないように世界に出て、世界の仏教と交わることによって、より一層輝くものであると信じております。そのためには、やはり僧侶自ら出向いて交流の機会を持たねばならず、今回のような役割を微力ながらも担っていきたく切に思ったのでした。



前回ベトナムに行ったのが18年前。今回、発展を遂げて豹変した風景に驚嘆しました。ハノイの都心部は東京都心を彷彿とさせます。ビル群が立ち並び、物価も日本と大して変わらない位になりました。ベトナム人は慎み深くて日本人の気質に似ています。そんなベトナム人が経済発展を遂げた先に何を見出すのか。少し前の日本を見ているようにも思えます。何が残り、何が忘れ去られるのか。そんなことを感じながら、これからの日越交流を更に深めていきたいと思った次第です。幸せに満ち溢れた時間でありました。



この企画の発起人であるベトナム人の尼僧さんのタム・チーさん、関口さん、段取りをさせていただいた関係各位には感謝してもきれません。

ベトナム軍事歴史博物館 移転先（ナムトゥリエム区） オープン

ベトナム軍事歴史博物館がハノイ市ナムトゥリエム区タンロン大通りで、移転オープンしたので訪問してきました。博物館は年内無料ということもあり、多くの人が見学に訪れていました。

前庭にある、高さ45mのシンボルタワー（ビクトリータワー）が出迎えてくれて、庭には戦車や戦闘機が展示されていました。

以前はバーディエン区にありましたが、2019年から総工費約2兆5000億ドンをかけての工事となり、オープンしました。（現在も増築中だと言ってます。）

館内は、3Dマッピング、自動音声ガイド、QRコード検索など、最新の技術を導入して、ベトナムの戦争の歴史、インドチャイナ、ベトナム戦争（南北）、ベトナム国の設立者、時の将軍、ドイモイ政策導入、サイゴン陥落、未来に向けたベトナム等に分かれて展示されていて、見やすくなっています。

更に天井から敵戦闘機（Mig-21）が吊下げられていたり、戦車があったり、とてもリアルな博物館です。ご興味のある方は一度訪問されるといいと思います。



～～ 掲 示 板 ～～

新入会員ご紹介

法人会員	(株)ビーバーズ	(渋谷区恵比寿)
法人会員	(株)ワールドット	(渋谷区神南)
法人会員	栄グローバル(株)	(名古屋市中区)
法人会員	(株)20G	(文京区大塚)
法人会員	(株)ジェイエムインテグラル	(港区赤坂)
個人会員	栗津 卓郎	(弁護士)
個人会員	遠藤 健	((一社) あかり会理事長)
個人会員	上原 千明	((一社) あかり会理事)

会員名簿

2024年10月1日現在 敬称略

<p>○法人会員</p> <p>(学) 明日香学園 (大分県大分市)</p> <p>アイデックス社会保険労務士法人 (埼玉県春日部市)</p> <p>一般財団法人アジア会館 (東京都港区)</p> <p>いすゞ自動車(株) (横浜市西区)</p> <p>オプテックス(株) (滋賀県大津市)</p> <p>(株)学生情報センター (東京都渋谷区)</p> <p>(株)柿生電設 (東京都町田市)</p> <p>KD ジャパン(株) (東京都中央区)</p> <p>(株)グローバルトラストネットワークス (東京都豊島区)</p> <p>栄グローバル(株) (名古屋市中区)</p> <p>(株)シーエス・アイ (東京都文京区)</p> <p>(株)ジェイエムインテグラル (東京都港区)</p> <p>東京放送ホールディングス(株) (東京都港区)</p> <p>東京都行政書士会 (東京都目黒区)</p> <p>(株)20G (東京都文京区)</p> <p>西川産業(株) (大阪市淀川区)</p> <p>日本工営(株) (東京都千代田区)</p> <p>日本ハウズイング(株) (東京都新宿区)</p> <p>日本ユニシス(株) (東京都江東区)</p> <p>(株)平山 (東京都港区)</p> <p>広島トヨタ自動車(株) (広島県広島市)</p> <p>(株)ビーバーズ (東京都渋谷区)</p> <p>フォーリンスタッフ(株) (東京都中央区)</p> <p>(学) 松山学園 (千葉県松戸市)</p> <p>MIRAI(株) (東京都港区)</p> <p>(学) メイ・ウシヤマ学園 (東京都港区)</p> <p>(株)ワールドット (東京都渋谷区)</p>	<p>○賛助会員</p> <p>一般社団法人 日本ベトナム経済交流センター (大阪市北区)</p> <p>認定特定非営利活動法人 日越堺友好協会 (堺市堺区)</p> <p>日本ベトナム友好協会茨城県連合会 (茨城県水戸市)</p> <p>一般社団法人 国際人材生活支援機構 (岐阜県海津市)</p> <p>袋井ベトナム友好協会 (静岡県袋井市)</p> <p>特定非営利活動法人 日本国際親善協会 (東京都新宿区)</p> <p>一般社団法人 日本ベトナムビジネス連合会 (東京都千代田区)</p> <p>神戸大学大学院農学研究科 (神戸市灘区)</p> <p>一般社団法人外国人留学生高等教育協会 (東京都渋谷区)</p> <p>特定非営利活動法人 Adovo (東京都港区)</p> <p>習志野ベトナム友好協会 (千葉県習志野市)</p>
	<p>○賛助会員 (ベトナム人団体)</p> <p>一般社団法人大阪ベトナム友好協会</p> <p>在日ベトナム学生青年協会</p> <p>一般社団法人在日ベトナム仏教信者会</p> <p>一般社団法人在日ベトナム経営者協会</p>

○個人会員 82名

公益社団法人ベトナム協会 役員名簿

(令和6年6月21日現在)

※ 業務執行理事

理事 (会長)	槍田 松瑩	(学)国際大学理事長・元三井物産(株)会長・元弊協会会長)
◎ 代表理事	山中 祥弘	((学) メイ・ウシヤマ学園理事長)
※ 理事副会長	湯下 博之	(元駐ベトナム日本国大使・民間外交推進協会専務理事)
※ 理事副会長	梅田 邦夫	(元駐ベトナム日本国大使・(一財) 外国人材共生支援全国協会副会長)
※ 専務理事	篠田 文治	(学)国際大学常務理事・元米国三井物産(株)副社長)
※ 常務理事	小川 弘行	(事務局長・国際教育協会監事・VYSA顧問)
※ 常務理事	川島鋼太郎	(学)メイ・ウシヤマ学園国際交流室長)
理 事	東 直樹	(元住友商事(株)地域総括・調査部長)
理 事	入江 祥史	(公立高校 副校長補佐)
理 事	粕谷 健夫	(ベトナムフェスティバル実行委員・KD ジャパン(株)取締役)
理 事	北川 浩伸	(日本食品海外プロモーションセンター執行役・JETRO元ハノイ事務所長)
理 事	木村 憲	((社) シャンデイ国際ボランティア代議員)
理 事	小池 聡	(ベジタリア(株)代表取締役社長)
理 事	小松みゆき	(フリーライター「ベトナムの風に吹かれて」原作者)
理 事	貞弘 真理	(ISC(株)代表取締役社長)
理 事	坪井 善明	(早稲田大学名誉教授)
理 事	守部 裕行	(JETRO 日本貿易振興機構元ハノイ事務所長)
監 事	福田 利之	(日本工営(株)コンサルティング事業統括本部営業統括海外営業部課長)
監 事	吉成 正樹	(アイデックス社会保険労務士法人代表社員)

あとがき

ホーチミンでは、12月22日日本のODAによる円借款と技術支援の大プロジェクト「都市鉄道（地下鉄）」の一部が開通しました。

初日の乗降客は約5.5万人。ハノイのモノレール開通とはくらべものにならない大盛況であったようです。

弊協会は、今年11月設立60年を迎えます。

今では在留ベトナム人が60万人を超え、ベトナム料理店が身近になり、日越文化交流は全国各地で盛んに行われています。

60年前協会設立にご尽力された人たちは、今日の日越友好の繁栄を想像していたでしょうか？

次の時代を担う人たちには、数多くの人たちの努力があって、今日の友好親善があることを知ってほしいと思います。

ベトナム 2024-2025

2025（令和7年）2月発行

発行所 公益社団法人 ベトナム協会

発行責任者 山中 祥弘

編集責任者 小川 弘行

〒106-0032 東京都港区六本木6-5-17

ハリウッドハウス 3F

TEL 03-3403-3449

印刷（株）ポートサイド印刷

〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町16-2

TEL 045-776-2671 FAX 045-776-2678